

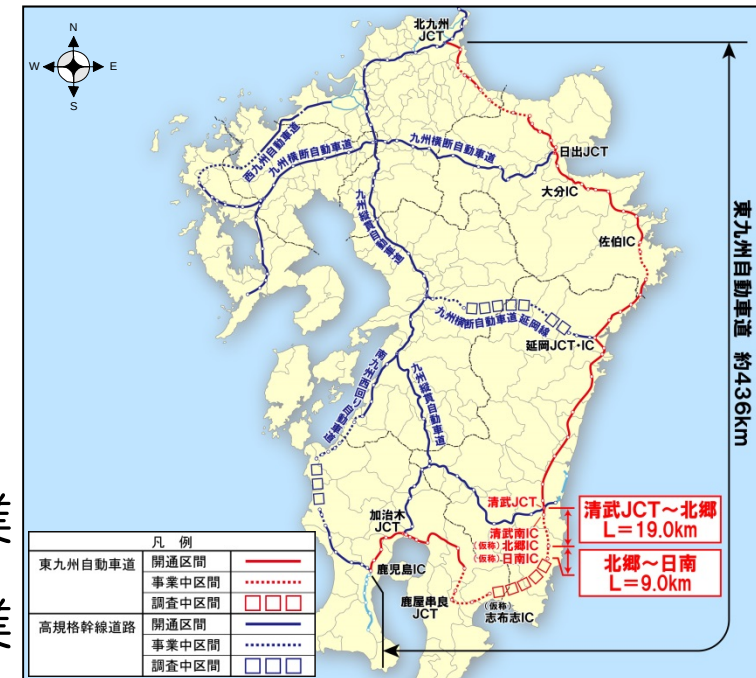
平成26年度 第3回
九州地方整備局 事業評価監視委員会

東九州自動車道

きよたけ きたごう
清武JCT～北郷

きたごう にちなん
北郷～日南

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後3年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

- 東九州自動車道 清武JCT～北郷・北郷～日南は、**高速道路ネットワークの一部を形成し、九州東部の広域的な連携を図り、物流の効率化及び地域の発展、災害に強いネットワークの構築等を目的とした事業。**

◆事業概要

- 本事業は、2車線の自動車専用道路である。これまでに、清武JCT～清武南IC (L=1.2km) が開通し、H29年度には北郷IC～日南IC (L=9.0km) が開通予定。

	清武JCT～北郷	北郷～日南
計画延長等	L=19.0km (第1種第2級、 設計速度100km/h)	L=9.0km (第1種第2級、 設計速度100km/h)
幅員	W=12.0m (2車線)	W=12.0m (2車線)
計画交通量 (H42)	①19,700台/日	②19,300台/日

▼ 事業経緯

	清武JCT～北郷	北郷～日南
平成10年度	施工命令 (JH: 日本道路公団)	
平成15年度	第1回国幹会議※ (H15.12.25) 新直轄方式に移行 (H16.1.30)、整備計画の変更	
平成17年度	用地買収着手、工事着手	
平成18年度		用地買収着手、工事着手
平成21年度	清武南IC (地域活性化IC) 追加設置許可	
平成24年度	清武JCT～清武南 開通 (L=1.2km)	

※第1回国土開発幹線自動車道建設会議

【清武JCT～北郷】

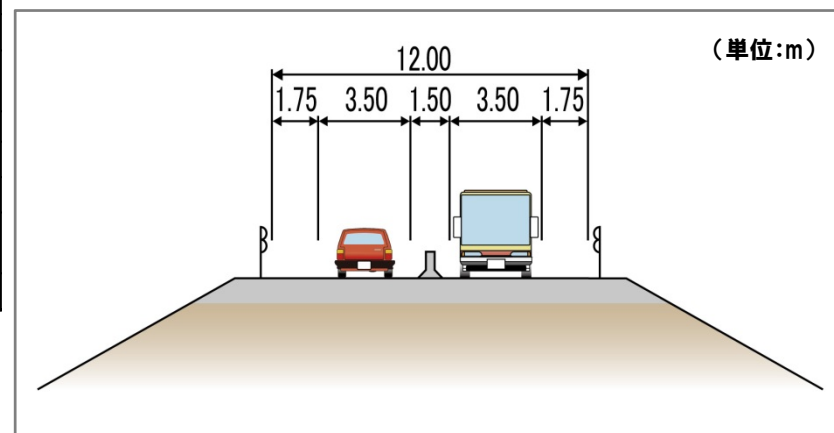
※事業進捗率: 約57%、用地進捗率: 約99%

【北郷～日南】

※事業進捗率: 約64%、用地進捗率: 約98%



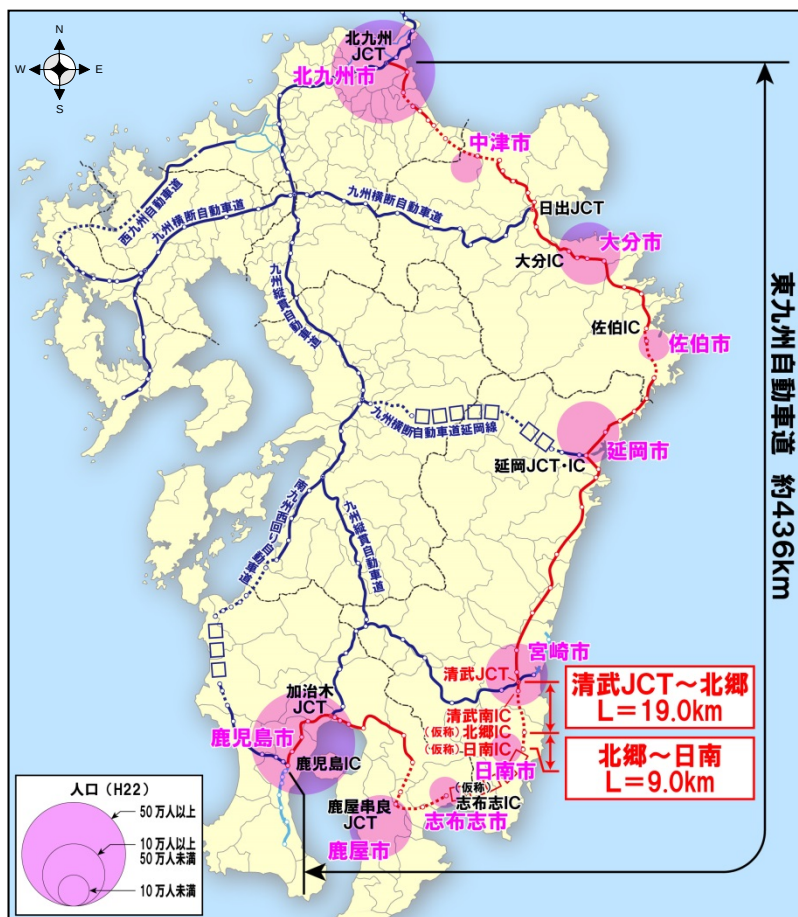
▲ 路線概要図



▲ 標準断面図

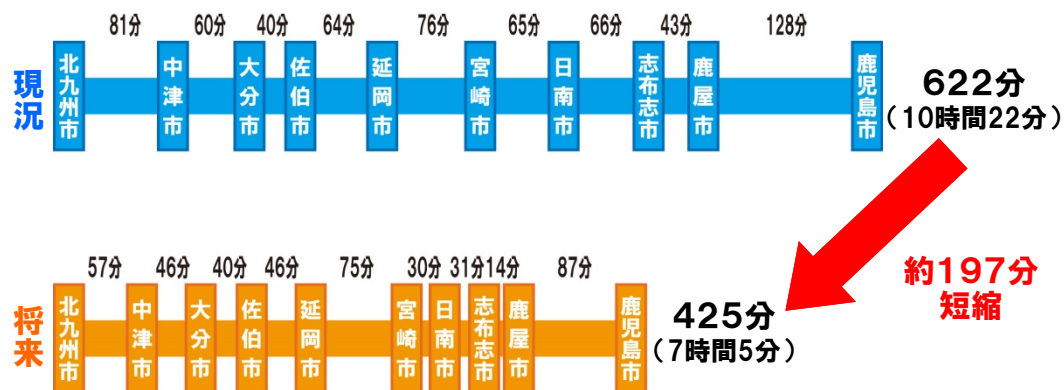
2. 事業の効果・必要性(広域交通ネットワークの形成)

- 東九州自動車道の沿線には、北九州市や大分市、宮崎市、鹿児島市といった政令指定都市及び県庁所在都市等が存在している。
- 東九州自動車道は、整備に伴う沿線都市間の所要時間短縮等により、九州東部の地域経済の活性化、高速定時性の確保に大きく貢献する道路である。



▲ 東九州自動車道の沿線地域

資料：H22国勢調査



※所要時間は北九州市～鹿児島市間の時間を表している。

※所要時間算出時の速度は以下のとおり。

- ・東九州道開通区間：規制速度
- ・東九州道事業中区間：開通後に想定される規制速度
- ・その他の道路：H22道路交通センサスの混雑時旅行速度

※現況の道路網はH26.7月時点。

※四捨五入の関係で、拠点間の所要時間の合計と全体時間が合わない場合がある。

資料：H22道路交通センサス

▲ 所要時間の変化

凡 例	
東九州自動車道	開通区間
	事業中区間
	調査中区間
高規格幹線道路	開通区間
	事業中区間
	調査中区間

2. 事業の効果・必要性(災害に強いネットワークの構築)

- 国道220号及び(主)日南高岡線には、異常気象時通行規制や災害時の通行止めが非常に多く、日常生活に支障をきたしている。
- 当該区間では南海トラフ等の地震による津波も懸念されていることから、東九州自動車道の整備により、災害に強いネットワークが構築されるものと期待される。

▼ (主)日南高岡線の規制状況

規制理由	規制回数	備考
災害による通行規制 (全面通行止め)	12回	崩土、落石等

※通行規制はH11～H25の15年間の実績

資料：宮崎県



資料：宮崎県「津波浸水想定」の設定について (H25. 2. 19)

▲ 災害時における輸送ルート

▼ 国道220号の規制状況

規制理由	規制回数	備考
災害による通行規制 (全面通行止め)	7回	法面崩落、落石等
事前通行規制 (全面通行止め)	55回	連続雨量170mm以上
15年間計(年平均)	62回 (4回/年)	

※通行規制はH11～H25の15年間の実績

資料：宮崎河川国道事務所

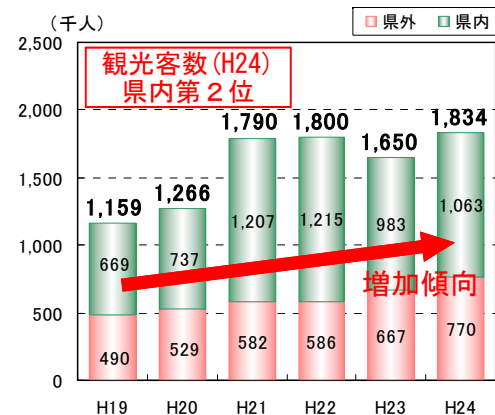


2. 事業の効果・必要性(観光振興の支援)

- 日南市は、観光客数が宮崎市に次いで県内第2位であり、増加傾向にある。
- 本路線の整備により、広域ネットワークが形成され、県内外からのアクセス性が向上する。
- また、所要時間が短縮することで周遊観光ルートが形成され、観光客の増加が期待される。

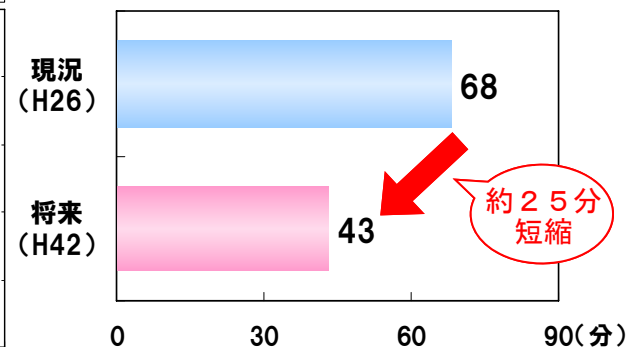


▲ 主な観光施設位置図



資料：観光動向調査結果(宮崎県)

▲ 観光入込客数の推移(日南市)



※所要時間算出時の速度は以下のとおり。

- ・現況：H22道路交通センサスの混雑時旅行速度
- ・将来：東九州道 清武JCT～日南は80km/h、その他の道路はH22道路交通センサスの混雑時旅行速度を用いて所要時間を算出。

▲ 所要時間の変化
(宮崎市～日南市飫肥城址)



【青島(宮崎市)】



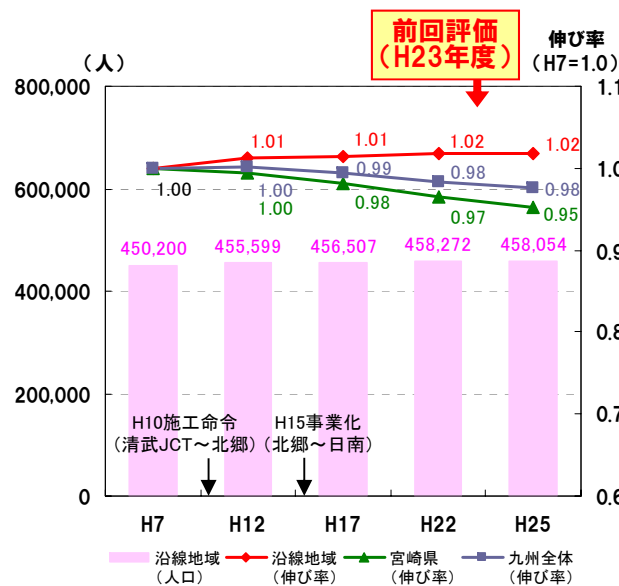
【鵜戸神宮(日南市)】

出典：公益財団法人みやざき観光コンベンション協会HP

2. 事業の効果・必要性(社会情勢等の変化)

- 沿線地域の人口は横這いであり、一世帯あたりの自動車保有台数は九州全体を上回っている。
- 並行路線の交通量は横這いであり、**依然として事業の必要性は高い。**

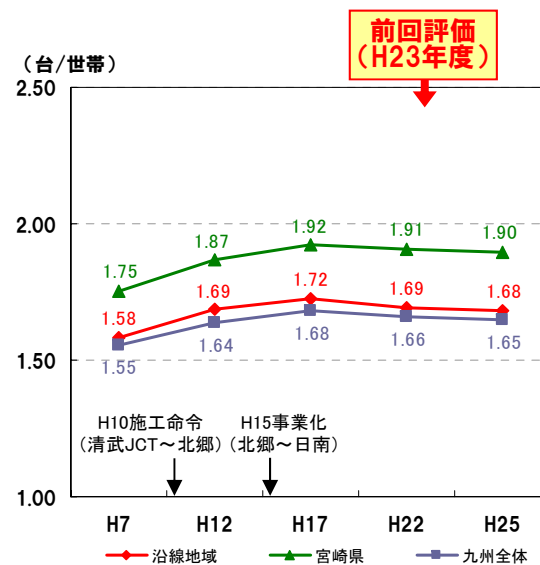
■人口の推移



資料: H7～H22: 国勢調査
H25: 宮崎県の推計人口と世帯数(年報)、九州各県推計人口

注) 沿線地域: 宮崎市、日南市の合計

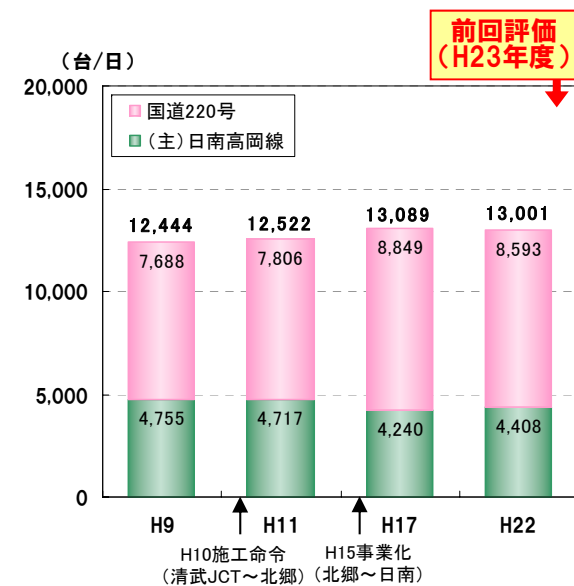
■自動車保有台数の推移 (一世帯あたり)



資料: H7: 九州の自動車保有台数統計資料
H12～H25: 自動車保有車両数、軽自動車車両数
H7～H22: 国勢調査
H25: 宮崎県の推計人口と世帯数(年報)、九州各県推計人口

注) 沿線地域: 宮崎市、日南市の合計

■交通量の推移



資料: H9～H22: 道路交通センサス

※地点名称: 国道220号 (宮崎市大字内海)
(主)日南高岡線 (日南市北郷町北河内大戸野)

3. 事業の進捗状況

- これまでに、1.2kmが開通し、H29年度には北郷IC～日南IC間が開通予定。
- 今年度も引き続き、用地買収・工事を推進していく予定。

事業区間の状況



▲ 清武JCT～清武南IC(写真①)



▲ 丸目TIC(仮称)終点抗口付近(写真②)



▲ 内之野川橋(仮称)付近(写真③)



年度	清武JCT～北郷(L=19.0km)	北郷～日南(L=9.0km)
H10	施工命令(JH:日本道路公団)	
H11～14		
H15	第1回国幹会議(H15.12.25)、新直轄方式に移行(H26.1.30)、整備計画の変更	
H16		事業化
H17	用地買収着手 工事着手	
H18		用地買収着手 工事着手
H19～20		
H21	清武南IC(地域活性化IC)追加設置許可	
H22～H23		
H24	前回評価(H23) 清武JCT～清武南 開通	前回評価(H23)
H25		
H26		
H27～H28		
H29		開通予定

4. 前回評価からの変化(事業費)

◆事業費の変動と主な要因 [清武JCT～北郷]

項 目	前回評価(H23年度)			今回評価(H26年度)			
	事業費		維持管理費	事業費		維持管理費	合 計
残事業	約787億円 * (約651億円)		約122億円 (約39億円)	約448億円 (約386億円)		約119億円 (約40億円)	約567億円 (約426億円)
	改良費	約81億円		改良費	約75億円		
	橋梁・トンネル・IC費	約557億円		橋梁・トンネル・IC費	約316億円		
	その他工事費	約146億円		その他工事費	約57億円		
	用地補償費	約3億円		用地補償費	約0.1億円		
全事業	約1,305億円 * (約1,196億円)		約122億円 (約39億円)	約1,305億円 * (約1,299億円)		約127億円 (約43億円)	約1,432億円 (約1,342億円)
	改良費	約172億円		改良費	約172億円		
	橋梁・トンネル・IC費	約911億円		橋梁・トンネル・IC費	約911億円		
	その他工事費	約212億円		その他工事費	約211億円		
	用地補償費	約10億円		用地補償費	約11億円		
主な変動要因(現在価値)				①基準年の変更(H23⇒H26)による増			

[北郷～日南]

項 目	前回評価(H23年度)			今回評価(H26年度)			
	事業費		維持管理費	事業費		維持管理費	合 計
残事業	約105億円 (約86億円)		約58億円 (約19億円)	約53億円 (約47億円)		約60億円 (約21億円)	約113億円 (約68億円)
	改良費	約65億円		改良費	約29億円		
	橋梁・トンネル・IC費	約3億円		橋梁・トンネル・IC費	約3億円		
	その他工事費	約37億円		その他工事費	約21億円		
	用地補償費	約0.2億円		用地補償費	約0.2億円		
全事業	約200億円 (約188億円)		約58億円 (約19億円)	約200億円 (約206億円)		約60億円 (約21億円)	約260億円 (約227億円)
	改良費	約96億円		改良費	約96億円		
	橋梁・トンネル・IC費	約34億円		橋梁・トンネル・IC費	約34億円		
	その他工事費	約52億円		その他工事費	約52億円		
	用地補償費	約18億円		用地補償費	約18億円		
主な変動要因(現在価値)				①基準年の変更(H23⇒H26)による増			

※上段：単純合計(税込み)、下段：現在価値化後

*事業費の算出に際しては、県・市負担による追加IC整備費(約7億円)を計上

4. 前回評価からの変化(便益)

◆便益の変動と主な要因 [清武JCT～北郷]

項 目	前回評価 (H23年度)			今回評価 (H26年度)			主な変動要因 (現在価値)
残事業	約1,113億円	走行時間短縮便益	約688億円	約1,421億円	走行時間短縮便益	約891億円	①基準年の変更 (H23⇒H26) による増 ②将来交通需要 推計手法の見 直しによる増
		走行経費減少便益	約279億円		走行経費減少便益	約362億円	
		交通事故減少便益	約146億円		交通事故減少便益	約167億円	
全事業	約1,113億円	走行時間短縮便益	約688億円	約1,421億円	走行時間短縮便益	約891億円	
		走行経費減少便益	約279億円		走行経費減少便益	約362億円	
		交通事故減少便益	約146億円		交通事故減少便益	約167億円	

[北郷～日南]

項 目	前回評価 (H23年度)			今回評価 (H26年度)			主な変動要因 (現在価値)
残事業	約473億円	走行時間短縮便益	約347億円	約559億円	走行時間短縮便益	約395億円	①基準年の変更 (H23⇒H26) による増 ②将来交通需要 推計手法の見 直しによる増
		走行経費減少便益	約75億円		走行経費減少便益	約104億円	
		交通事故減少便益	約51億円		交通事故減少便益	約59億円	
全事業	約473億円	走行時間短縮便益	約347億円	約559億円	走行時間短縮便益	約395億円	
		走行経費減少便益	約75億円		走行経費減少便益	約104億円	
		交通事故減少便益	約51億円		交通事故減少便益	約59億円	

※現在価値化後の便益

※今回評価での便益の算定については、これまでの人口・GDP等の将来フレームと全国生成交通量推計手法を統一する改善に加え、さらに交通機関共通の統合推計モデルを基に算出

4. 前回評価からの変化(B/C)

◆B/Cの変化 [清武JCT～北郷]

項 目	前回評価 (H23年度)	今回評価 (H26年度)
残事業	1.6 = $\frac{1,113\text{億円}}{691\text{億円}}$	3.3 = $\frac{1,421\text{億円}}{426\text{億円}}$
全事業	0.9 = $\frac{1,113\text{億円}}{1,235\text{億円}}$	1.1 = $\frac{1,421\text{億円}}{1,342\text{億円}}$

[北郷～日南]

項 目	前回評価 (H23年度)	今回評価 (H26年度)
残事業	4.5 = $\frac{473\text{億円}}{105\text{億円}}$	8.2 = $\frac{559\text{億円}}{68\text{億円}}$
全事業	2.3 = $\frac{473\text{億円}}{207\text{億円}}$	2.5 = $\frac{559\text{億円}}{227\text{億円}}$

【参考値】 [清武JCT～北郷～日南]

項 目	前回評価 (H23年度)	今回評価 (H26年度)
残事業	1.8	3.8
全事業	1.0	1.2

※ [] 書き上段：現在価値化後の便益、下段：現在価値化後のコスト（維持管理費を含む）

5. 事業の投資効果

◆その他(B/Cで計測できない効果)

道路事業の整備効果			
分野	内容		定量化
暮らし	医療施設までのアクセス改善	搬送時間の短縮による救命率の向上	[清武JCT～北郷～日南] 多量出血に関する救命率が約30%向上 [H42] (日南市⇒宮崎大学医学部附属病院)
安全	災害時の移動経路確保	災害時(津波等)の迂回路として機能	[清武JCT～北郷～日南] 津波浸水被害想定箇所 26箇所の回避 [H42]
環境	生活環境の改善	自動車の走行性向上による環境への影響低減	[清武JCT～北郷] CO ₂ 削減:16,041t-CO ₂ /年 [H42] NO ₂ 削減:20.8t-NO _x /年 [H42] SPM削減:1.1t-SPM/年 [H42]
			[北郷～日南] CO ₂ 削減:8,553t-CO ₂ /年 [H42] NO ₂ 削減:11.5t-NO _x /年 [H42] SPM削減:0.6t-SPM/年 [H42]

6. 対応方針(原案)

- 東九州自動車道 清武JCT～北郷・北郷～日南は、高速道路ネットワークの一部を形成し、九州東部の広域的な連携を図り、物流の効率化及び地域の発展、災害に強いネットワークの構築等を目的とした事業である。
- 費用対効果についても十分高い事業である。
- 事業進捗率は、清武JCT～北郷が事業費ベースで約57% [約739億円/約1,298億円] (平成25年度末)であり、そのうち、用地進捗率は約99%、北郷～日南が事業費ベースで約64% [約129億円/200億円] (平成25年度末)であり、そのうち、用地進捗率は約98%となっている。
- なお、宮崎市・日南市が地元協議の連絡調整を行うなど、地元自治体等からの支援も頂いており、今後の円滑な事業執行が可能である。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業を継続することとしたい。

卷 末 資 料

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	東九州自動車道 清武JCT～北郷
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている 全事業：費用便益比 (B/C) =1.1 (経済的純現在価値 (B-C) =79億円)、経済的内部収益率 (ERR) =4.3% 残事業：費用便益比 (B/C) =3.3 (経済的純現在価値 (B-C) =995億円)、経済的内部収益率 (ERR) =15%

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 中流なモビリティの確保	■ 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間D (当該区間／並行区間) について：国道220号 (宮崎市本部～日南市大字富士)、(主)日南高岡線 (宮崎市田野町～日南市北郷町) 並行区間等の渋滞損失時間：50.5万人・時間/年 並行区間等の渋滞損失削減率：7割削減
	□ 現道等における渋滞時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
	□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
	□ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	
	□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
物流効率化の支援	■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	日南市＝宮崎空港 (第二種空港) [全事業・残事業] 約21分短縮 [整備前56分⇒整備後35分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	日南市＝宮崎港 (重要港湾) [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前65分⇒整備後40分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	■ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	34-1b-産出額が全国1位である日南市から九州外への輸送を支援 (JAはまゆから出荷される34-1b-の約9割は九州外へ空輸) JAはまゆら⇒宮崎空港 [全事業・残事業] 約20分短縮 [整備前53分⇒整備後33分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	□ 現道等における、総重量25tの車両もしくは150規格前高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	

1. 活力	都市の再生	☐ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		☐ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	
		☐ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		☐ 中心市街地内で行う事業である	
		☐ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km ² 以下である市街地内での事業である	
		☐ D10区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
		☐ 対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる	
		☐ 高速自動車国道と並行する自専道（A'路線）としての位置づけ有り	
	国土・地域ネットワークの構築	☐ 地域急接近格道路の位置づけあり	
		☒ 当幹線路が新たな拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分]：東九州自動車道（清武JCT～日南JCT）
		☒ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短时间内で連絡する路線を構成する	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分]：東九州自動車道（清武JCT～日南JCT）
		☒ 現道等における交通不便地区間を解消する	国道220号の事前通行規制区間（小内海～富土、宮浦～風田）の代替路線として機能する
		☐ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		☒ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分]：東九州自動車道（清武JCT～日南JCT）
		☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
2.暮らし	個性ある地域の形成	☐ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクトを支援する	
		☒ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	松尾城址年間観光客入り込み数：約20万人（H25年） 宮崎市⇒秋田県 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前68分⇒整備後43分]：東九州自動車道（清武JCT～日南JCT）
		☐ 特別立法に基づく事業である	
		☐ 新規整備の公共施設へ直結する道路である	
		☐ 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンポル的な道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である	
	歩行者・自転車・車のための生活空間の形成	☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		☐ バリアフリー新法に基づく特定道路が新たにバリアフリー化される	
		☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		☐ 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
安全で安心して暮らすための確保	無電柱化による美しい町並みの形成		日南市⇒宮崎大学医学部附属病院（三次救急医療施設） [全事業・残事業] 約24分短縮 [整備前59分⇒整備後35分]：東九州自動車道（清武南IC～日南JCT）

3. 安全	安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億キロ以上である区間がある場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	現道等又は線形不良区間の解消等
		☐ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	
	災害への備え	☐ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	
		☐ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	
		■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	代替する緊急輸送道路：国道220号（第一次ネットワーク）、代替する区間：日南市～宮崎市間
		☐ 並行する高速度ネットワークの代替路線として機能する（A路線としての位置づけがある場合）	
		☐ 現道等の防災点検又は震災点検並対策箇所もしくは整備の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される	
		☐ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
		☐ 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する	
		☐ 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する	
		☐ 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす	
4. 環境	地球環境の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO ₂ 排出量	CO ₂ 排出削減量：16,041 t-CO ₂ /年（全事業・残事業）
	生活環境の改善・保全	● 現道等における自動車からのNO ₂ 排出削減率	評価対象区間（現道）：国道220号（宮崎市本郷～日南市大字富士）（主）日南高岡線（宮崎市田野町～日南市北郷町） 排出削減量：20.8 t-NO _x /年、排出削減率：約5割削減（全事業・残事業）
		● 現道等における自動車からのSPM排出削減率	評価対象区間（現道）：国道220号（宮崎市本郷～日南市大字富士）（主）日南高岡線（宮崎市田野町～日南市北郷町） 排出削減量：1.1 t-SPM/年、排出削減率：約5割削減（全事業・残事業）
		☐ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
5. その他	他のプロジェクトとの関係	☐ その他、環境や景観上の効果が期待される	
		☐ 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	
		☐ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		☐ 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が更込まれる	

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
東九州自動車道	清武JCT～北郷	19.0km	高規格(新直轄)	ＢＰ

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
19,700	2	九州地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	平成26年度		
単純合計	1,229億円	117億円	1,346億円
うち残事業分	421億円	110億円	531億円
基準年における 現在価値 (C)	1,299億円	43億円	1,342億円
うち残事業分	386億円	40億円	426億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成26年度			
供 用 年	平成31年度			
単年便益 (初年便益)	54億円	23億円	11億円	87億円
基準年における 現在価値 (B)	891億円	362億円	167億円	1,421億円
うち残事業分	891億円	362億円	167億円	1,421億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	1.1
経済的純現在価値（事業全体）	79億円
経済的内部収益率（事業全体）	4.3%
費用便益比（残事業）	3.3
経済的純現在価値（残事業）	995億円
経済的内部収益率（残事業）	15%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,700	±10%	1.0 ～ 1.2
事業費	1,229億円	±10%	1.0 ～ 1.1
事業期間	22年	±20%	1.0 ～ 1.1

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,700	±10%	3.0 ～ 3.7
事業費	421億円	±10%	3.1 ～ 3.7
事業期間	4年	±20%	3.2 ～ 3.3

交通状況の変化

様式－3①

事業名：東九州自動車道 清武JCT～北郷

(推計時点 H42年) (事業全体・残事業)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 〔東九州道 (清武JCT～北郷)〕 ：19.0km		交通量	[台/日]	0.00	19,700
		走行時間	[分]	0.00	16
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	57
②主な周辺道路	国道220号 ：22.6km	交通量	[台/日]	11,700	4,500
		走行時間	[分]	31	28
		走行時間費用	[億円/年]	64	22
	(主)日南高岡線 ：24.0km	交通量	[台/日]	4,700	600
		走行時間	[分]	32	32
		走行時間費用	[億円/年]	29	3.8
	(主)都城北郷線 ：30.5km	交通量	[台/日]	5,400	2,600
		走行時間	[分]	47	47
		走行時間費用	[億円/年]	47	23
	(主)宮崎北郷線 ：25.8km	交通量	[台/日]	1,500	700
		走行時間	[分]	40	40
		走行時間費用	[億円/年]	12	6.1
③その他道路合計 ：2,162.4km		走行時間費用	[億円/年]	3,916	3,906

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 2,284.3km	走行時間短縮便益	[億円/年]	4,069	4,017	52

東九州自動車道
清武JCT～北郷
L=19.0km

主な周辺道路
(主)宮崎北郷線

主な周辺道路
国道220号

主な周辺道路
(主)日南高岡線

主な周辺道路
(主)都城北郷線

清武I.C
清武JCT
清武南I.C
田野I.C
旧清武町
宮崎I.C
宮崎市
旧北郷町
北郷I.C (仮称)
日南市
日南I.C (仮称)

269
27
28
33
220
222
54
3

N

費用便益分析の条件

事業名：東九州自動車道 清武JCT～北郷

(2)

項目		チェック欄		
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	☒		
	その他	☐		
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間		
	社会的割引率	4%		
	基準年次	平成26年		
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☒ (H42)	
		複数時点での推計	☐ ()	
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	☒	
		整備の有無のいずれかのみ推計	☐ 有 ☐ 無	
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載	
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	☒ (H17センサス)	
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	☐	
		その他()	☐	
	開発交通量の考慮	無	☒	
		有	☐	
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載	
	配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	☐	
		転換率式を用いた配分	☐	
		Q-V式と転換率式の併用による配分	☒	
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	☐	
		簡易手法	☐	
		簡易手法の 採択理由	小規模事業である	☐
			山間部海岸部で併行道路が少ない	☐
			その他()	
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)				
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け して設定	☒		
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax～Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線などが混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。			
	最終配分の速度	☐		
	採用理由を記載			
	その他()	☐		

事業名:東九州自動車道 清武JCT～北郷

(3)

項目			チェック欄	
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	☒
			対象路線のみ考慮	☐
			採用した休日係数	(128) %
			休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載 休日交通量の多い国道220号での平日交通量と休日交通量の交通量比を使用	
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	(1.48) 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
			過去15年間の通行止め実績	
			とり止め交通を考慮する	☐
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載 過去の実績値がないため			
	冬期交通の 影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日
			採用した冬期日数の考え方を記載	
	交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定		☒
		その他 ()		☐
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		☒	
	独自に設定した値を使用		☐	
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		☒	
	独自に設定した値を使用		☐	
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮		☒	
	中央分離帯の有無を考慮しない		☐	
走行時間短縮・走 行経費減少・交通 事故減少以外の便 益	考慮しない		☒	
	考慮する		☐	
その他				

事業名: 東九州自動車道 清武JCT～北郷

(4)

項目			チェック欄
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用	☐
		標準投資パターンを採用	☐
		その他(概略事業計画による値を採用)	☒
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費(過去3年間:H23～H25)に基づく	
		雪寒費	積雪地域または寒冷地域である
	その他		
4. その他			

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 東九州自動車道 清武JCT～北郷 (事業全体)

					単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
					0.13	19.00	2.53
年次	年度	割戻率	GDP デフレータ	事業費(億円)	単純価値	現在価値	維持管理費(億円)
					単純価値	現在価値	単純価値
-22年目	H 9	1.9479	110.4	0.10	0.16		
-21年目	H 10	1.8730	109.9	0.73	1.14		
-20年目	H 11	1.8009	108.4	0.78	1.19		
-19年目	H 12	1.7317	107.2	1.67	2.47		
-18年目	H 13	1.6651	105.7	0.68	0.98		
-17年目	H 14	1.6010	103.8	1.50	2.12		
-16年目	H 15	1.5395	102.3	6.24	8.58		
-15年目	H 16	1.4802	101.0	4.64	6.20		
-14年目	H 17	1.4233	99.6	15.87	20.70		
-13年目	H 18	1.3686	98.7	48.94	61.96		
-12年目	H 19	1.3159	97.6	73.82	90.87		
-11年目	H 20	1.2653	96.8	94.51	112.79		
-10年目	H 21	1.2167	95.6	109.42	127.14		
-9年目	H 22	1.1699	93.7	77.37	88.19		
-8年目	H 23	1.1249	92.1	58.00	64.67		
-7年目	H 24	1.0816	91.3	88.93	96.19		
-6年目	H 25	1.0400	91.3	121.91	126.79		
-5年目	H 26	1.0000	91.3	102.26	102.26		
-4年目	H 27	0.9615	91.3	123.17	118.44		
-3年目	H 28	0.9246	91.3	125.25	115.80		
-2年目	H 29	0.8890	91.3	107.91	95.93		
-1年目	H 30	0.8548	91.3	64.83	55.42		
供用開始年次	H 31	0.8219	91.3			2.34	1.93
1年目	H 32	0.7903	91.3			2.34	1.85
2年目	H 33	0.7599	91.3			2.34	1.78
3年目	H 34	0.7307	91.3			2.34	1.71
4年目	H 35	0.7026	91.3			2.34	1.65
5年目	H 36	0.6756	91.3			2.34	1.58
6年目	H 37	0.6496	91.3			2.34	1.52
7年目	H 38	0.6246	91.3			2.34	1.46
8年目	H 39	0.6006	91.3			2.34	1.41
9年目	H 40	0.5775	91.3			2.34	1.35
10年目	H 41	0.5553	91.3			2.34	1.30
11年目	H 42	0.5339	91.3			2.34	1.25
12年目	H 43	0.5134	91.3			2.34	1.20
13年目	H 44	0.4936	91.3			2.34	1.16
14年目	H 45	0.4746	91.3			2.34	1.11
15年目	H 46	0.4564	91.3			2.34	1.07
16年目	H 47	0.4388	91.3			2.34	1.03
17年目	H 48	0.4220	91.3			2.34	0.99
18年目	H 49	0.4057	91.3			2.34	0.95
19年目	H 50	0.3901	91.3			2.34	0.91
20年目	H 51	0.3751	91.3			2.34	0.88
21年目	H 52	0.3607	91.3			2.34	0.84
22年目	H 53	0.3468	91.3			2.34	0.81
23年目	H 54	0.3335	91.3			2.34	0.78
24年目	H 55	0.3207	91.3			2.34	0.75
25年目	H 56	0.3083	91.3			2.34	0.72
26年目	H 57	0.2965	91.3			2.34	0.69
27年目	H 58	0.2851	91.3			2.34	0.67
28年目	H 59	0.2741	91.3			2.34	0.64
29年目	H 60	0.2636	91.3			2.34	0.62
30年目	H 61	0.2534	91.3			2.34	0.59
31年目	H 62	0.2437	91.3			2.34	0.57
32年目	H 63	0.2343	91.3			2.34	0.55
33年目	H 64	0.2253	91.3			2.34	0.53
34年目	H 65	0.2166	91.3			2.34	0.51
35年目	H 66	0.2083	91.3			2.34	0.49
36年目	H 67	0.2003	91.3			2.34	0.47
37年目	H 68	0.1926	91.3			2.34	0.45
38年目	H 69	0.1852	91.3			2.34	0.43
39年目	H 70	0.1780	91.3			2.34	0.42
40年目	H 71	0.1712	91.3			2.34	0.40
41年目	H 72	0.1646	91.3			2.34	0.39
42年目	H 73	0.1583	91.3			2.34	0.37
43年目	H 74	0.1522	91.3			2.34	0.36
44年目	H 75	0.1463	91.3			2.34	0.34
45年目	H 76	0.1407	91.3			2.34	0.33
46年目	H 77	0.1353	91.3			2.34	0.32
47年目	H 78	0.1301	91.3			2.34	0.30
48年目	H 79	0.1251	91.3			2.34	0.29
49年目	H 80	0.1203	91.3	-5.95	-0.72	2.34	0.28
合 計				1,222.60	1,299.27	117.13	43.02
単純事業費計				1,228.55		117.13	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 東九州自動車道 清武JCT～北郷(残事業)

単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)
0.13	17.80	2.37

年次	年度	割戻率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
-4年目	H 27	0.9615	91.3	123.17	118.44		
-3年目	H 28	0.9246	91.3	125.25	115.80		
-2年目	H 29	0.8890	91.3	107.91	95.93		
-1年目	H 30	0.8548	91.3	64.83	55.42		
供用開始年次	H 31	0.8219	91.3			2.19	1.80
1年目	H 32	0.7903	91.3			2.19	1.73
2年目	H 33	0.7599	91.3			2.19	1.67
3年目	H 34	0.7307	91.3			2.19	1.60
4年目	H 35	0.7026	91.3			2.19	1.54
5年目	H 36	0.6756	91.3			2.19	1.48
6年目	H 37	0.6496	91.3			2.19	1.43
7年目	H 38	0.6246	91.3			2.19	1.37
8年目	H 39	0.6006	91.3			2.19	1.32
9年目	H 40	0.5775	91.3			2.19	1.27
10年目	H 41	0.5553	91.3			2.19	1.22
11年目	H 42	0.5339	91.3			2.19	1.17
12年目	H 43	0.5134	91.3			2.19	1.13
13年目	H 44	0.4936	91.3			2.19	1.08
14年目	H 45	0.4746	91.3			2.19	1.04
15年目	H 46	0.4564	91.3			2.19	1.00
16年目	H 47	0.4388	91.3			2.19	0.96
17年目	H 48	0.4220	91.3			2.19	0.93
18年目	H 49	0.4057	91.3			2.19	0.89
19年目	H 50	0.3901	91.3			2.19	0.86
20年目	H 51	0.3751	91.3			2.19	0.82
21年目	H 52	0.3607	91.3			2.19	0.79
22年目	H 53	0.3468	91.3			2.19	0.76
23年目	H 54	0.3335	91.3			2.19	0.73
24年目	H 55	0.3207	91.3			2.19	0.70
25年目	H 56	0.3083	91.3			2.19	0.68
26年目	H 57	0.2965	91.3			2.19	0.65
27年目	H 58	0.2851	91.3			2.19	0.63
28年目	H 59	0.2741	91.3			2.19	0.60
29年目	H 60	0.2636	91.3			2.19	0.58
30年目	H 61	0.2534	91.3			2.19	0.56
31年目	H 62	0.2437	91.3			2.19	0.53
32年目	H 63	0.2343	91.3			2.19	0.51
33年目	H 64	0.2253	91.3			2.19	0.49
34年目	H 65	0.2166	91.3			2.19	0.48
35年目	H 66	0.2083	91.3			2.19	0.46
36年目	H 67	0.2003	91.3			2.19	0.44
37年目	H 68	0.1926	91.3			2.19	0.42
38年目	H 69	0.1852	91.3			2.19	0.41
39年目	H 70	0.1780	91.3			2.19	0.39
40年目	H 71	0.1712	91.3			2.19	0.38
41年目	H 72	0.1646	91.3			2.19	0.36
42年目	H 73	0.1583	91.3			2.19	0.35
43年目	H 74	0.1522	91.3			2.19	0.33
44年目	H 75	0.1463	91.3			2.19	0.32
45年目	H 76	0.1407	91.3			2.19	0.31
46年目	H 77	0.1353	91.3			2.19	0.30
47年目	H 78	0.1301	91.3			2.19	0.29
48年目	H 79	0.1251	91.3			2.19	0.27
49年目	H 80	0.1203	91.3	-0.04	0.00	2.19	0.26
合 計				421.12	385.58	109.72	40.30
単純事業費計				421.16		109.72	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名:東九州自動車道 清武JCT～北郷(事業全体・残事業)

様式-5

年度 (基準年)	年次	総走行台キロの年次別伸び率 (南九州ブロック)				GDP デフレーター	割引率 (A)	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)			合 計 (億円)			
		便益の現在価値算定表						便益の現在価値算定表				便益の現在価値算定表			便益の現在価値算定表							
		乗用車	小型貨物	普通貨物	全 車			乗用車	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 (①)×(A)	乗用車	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③		現在価値 (③)×(A)	便益合計 (①)～③	割引率%
H26	採用開始年次	H 31	0.99552	0.98875	0.98773	0.99343	0.8219	91.3	41.11	9.82	3.12	54.06	44.43	17.95	3.59	1.35	22.90	18.82	10.54	8.66	87.49	71.91
	1年目	H 32	0.99665	0.98975	0.99147	0.99479	0.7903	91.3	40.93	9.71	3.08	53.72	42.46	17.87	3.55	1.33	22.76	17.99	10.47	8.27	86.95	68.72
	2年目	H 33	0.99664	0.98964	0.99140	0.99476	0.7599	91.3	40.79	9.61	3.06	53.46	40.63	17.81	3.52	1.32	22.65	17.21	10.42	7.91	86.53	65.75
	3年目	H 34	0.99663	0.98953	0.99132	0.99473	0.7307	91.3	40.65	9.51	3.03	53.20	38.87	17.75	3.48	1.31	22.54	16.47	10.36	7.57	86.10	62.91
	4年目	H 35	0.99662	0.98942	0.99125	0.99470	0.7026	91.3	40.52	9.41	3.00	52.93	37.19	17.69	3.44	1.30	22.44	15.76	10.31	7.24	85.68	60.19
	5年目	H 36	0.99661	0.98931	0.99117	0.99468	0.6756	91.3	40.38	9.31	2.98	52.67	35.58	17.63	3.41	1.29	22.33	15.08	10.25	6.93	85.25	57.59
	6年目	H 37	0.99659	0.98919	0.99109	0.99465	0.6496	91.3	40.24	9.21	2.95	52.41	34.04	17.57	3.37	1.27	22.22	14.43	10.20	6.62	84.83	55.10
	7年目	H 38	0.99658	0.98908	0.99101	0.99462	0.6246	91.3	40.11	9.11	2.93	52.15	32.57	17.51	3.34	1.26	22.11	13.81	10.14	6.34	84.40	52.72
	8年目	H 39	0.99657	0.98895	0.99093	0.99459	0.6006	91.3	39.97	9.01	2.90	51.88	31.16	17.45	3.30	1.25	22.00	13.22	10.09	6.06	83.98	50.43
	9年目	H 40	0.99656	0.98883	0.99085	0.99456	0.5775	91.3	39.83	8.91	2.87	51.62	29.81	17.39	3.26	1.24	21.90	12.65	10.03	5.79	83.55	48.25
	10年目	H 41	0.99655	0.98871	0.99076	0.99453	0.5533	91.3	39.70	8.81	2.85	51.36	28.52	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	11年目	H 42	0.99652	0.98853	0.99062	0.99450	0.5309	91.3	39.56	8.63	2.82	51.09	27.20	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	12年目	H 43	0.99652	0.98853	0.99062	0.99450	0.5309	91.3	39.56	8.63	2.82	51.09	27.20	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	13年目	H 44	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	14年目	H 45	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	15年目	H 46	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	16年目	H 47	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	17年目	H 48	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	18年目	H 49	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	19年目	H 50	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	20年目	H 51	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	21年目	H 52	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	22年目	H 53	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	23年目	H 54	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	24年目	H 55	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	25年目	H 56	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	26年目	H 57	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	27年目	H 58	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	28年目	H 59	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	29年目	H 60	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	30年目	H 61	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	31年目	H 62	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	32年目	H 63	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	33年目	H 64	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	34年目	H 65	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	35年目	H 66	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	36年目	H 67	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	37年目	H 68	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	38年目	H 69	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	39年目	H 70	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	40年目	H 71	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	41年目	H 72	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	42年目	H 73	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	43年目	H 74	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	44年目	H 75	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448	0.5134	91.3	39.43	8.46	2.80	50.82	25.81	17.33	3.23	1.23	21.79	12.10	9.98	5.54	83.13	46.16
	45年目	H 76	0.99651	0.98851	0.99060	0.99448																

全体事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷	2	19.0km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					112,219	
	改良費				17,247	
		土工	m ³	3,320,909	4,042	切土(1,824,644m ³)、盛土(1,496,265m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³			
		法面工	m ²	122,767	374	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	496	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
		管渠工	m	688	188	
		函渠工	m	416	906	
		排水工	m	19,467	619	
		中央分離帯工	m	16,748	738	
		雑工	式	1	9,884	
	橋梁費				11,653	
		100m以上	m	2,193	10,416	Me橋4橋、PC橋5橋
		100m未満	m	284	1,237	Me橋4橋、PC橋1橋
	トンネル費				78,311	
		NATM	m	10,804	78,311	12本
		シールド	m			
	IC・JCT費				457	
		IC	箇所	2	457	ダイヤモンド型(2箇所)
		JCT	箇所			
	舗装費				4,133	
		車道舗装	m ²	70,148	4,133	
		歩道舗装	m ²			
	付帯施設費				418	
		交通管理施設工	式	1	418	標識工、防護柵工、道路照明等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1,105	
	用地費			m ²	618,008	595
		宅地	m ²	6,367	48	
		田畑	m ²	84,650	187	
		山林・原野	m ²	526,991	360	
		その他	m ²			
	補償費			式	1	510
③間接経費			式	1	16,456	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					129,780	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

残事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷	2	17.8km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
①工事費					43,595		
	改良費				7,499		
		土工	m³	2,072,494	2,003	切土(1,206,560m³)、盛土(865,934m³)	
		軟弱地盤改良工	m³				
		法面工	m²	43,495	64	切土法面、盛土法面	
		擁壁工	式	1	195	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等	
		管渠工	m	153	41		
		函渠工	m	19	89		
		排水工	m	8,368	272		
		中央分離帯工	m	16,748	738		
		雑工	式	1	4,097		
	橋梁費				6,228		
		100m以上	m	1,771	6,228	Me橋3橋、PC橋4橋	
		100m未満	m				
	トンネル費				24,935		
		NATM	m	4,517	24,935	4本	
		シールド	m				
	IC・JCT費				382		
		IC	箇所	2	382	ダイヤモンド型(2箇所)	
		JCT	箇所				
	舗装費				4,133		
		車道舗装	m²	70,148	4,133		
		歩道舗装	m²				
	付帯施設費				418		
		交通管理施設工	式	1	418	標識工、防護柵工、道路照明等	
		遮音壁	m				
②用地及補償費					5		
	用地費			m²	2,527	4	
		宅地	m²				
		田畑	m²				
		山林・原野	m²	2,527	4		
		その他	m²				
	補償費	式	1	1			
③間接経費		式	1	1,185	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等		
全体事業費				44,785			

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

全事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷	2	19.0km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	19.0	2,750	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	9,900	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			12,650	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

残事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷	2	17.8km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	17.8	2,550	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	9,300	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			11,850	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

卷 末 資 料

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	東九州自動車道 北郷～日南
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性 ■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比 (B/C) =2.5 (経済的純現在価値 (B-C) =332億円)、経済的内部収益率 (EIRR) =8.0% 残事業：費用便益比 (B/C) =8.2 (経済的純現在価値 (B-C) =491億円)、経済的内部収益率 (EIRR) =34%

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 円滑なモビリティの確保	■ 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間D (当該区間／並行区間) について：国道220号 (日南市大字富士～日南市大字風田)、(主)日南高岡線 (日南市北郷町～日南市大字東井分)、(一)風田重倉線 (日南市大字東井分～日南市大字風田) 並行区間等の渋滞損失時間：12.6万人・時間/年 並行区間等の渋滞損失削減率：8割削減
	□ 現道等における遅延時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
	□ 現道又は並行区間等における路側交通遮断量が10,000台時/日以上の路切道の除却もしくは交通改善が期待される	
	□ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	
	□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
	■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	日南市＝宮崎空港 (第二種空港)「整備前56分⇒整備後35分」：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC) [全事業・残事業] 約21分短縮
	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	日南市＝宮崎港 (重要港湾) [全事業・残事業] 約25分短縮「整備前65分⇒整備後40分」：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	■ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	ｽｲｰﾄｰ産出額が全国1位である日南市から九州外への輸送を支援 (JAはまゆりから出荷されるｽｲｰﾄｰの約9割は九州外へ空輸) JAはまゆり⇒宮崎空港 [全事業・残事業] 約20分短縮「整備前53分⇒整備後33分」：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	□ 現道等における、総重量25tの車両もしくは150規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	
	物流効率化の支援	

1. 活力	都市の再生	☐ 都市再生プロジェクトを支援する事業である		
		☐ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する		
		☐ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり		
		☐ 中心市街地内で行う事業である		
		☐ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内の事業である		
		☐ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する		
		☐ 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる		
		☐ 高速自動車国道と並行する自専道(A路線)としての位置づけ有り		
		☐ 地域高規格道路の位置づけあり		
		☒ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する		日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
	国土・地域ネットワークの構築	☒ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する		日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
		☒ 現道等における交通不能区間を解消する		国道220号の事前通行規制区間(小内海～富士、宮浦～風田)の代替路線として機能する
		☐ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する		
		☒ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる		日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
		☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する		
		☐ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する		
		☒ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される		鉄肥城址年間観光客入り込み数: 約20万人 (H25年) 宮崎市⇒佐賀城址 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前68分⇒整備後43分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
		☐ 特別立法に基づく事業である		
		☐ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である		
		☐ 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボル的な道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である		
2. 暮らし	歩行者・自転車・自動車のための生活空間の形成	☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる		
		☐ バリアフリー新法に基づく特定道路が新たにバリアフリー化される		
	集積化による新しい町並みの形成	☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り		
		☐ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する		
	安全で安心できる暮らしの確保	☒ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる		日南市⇒宮崎大学医学部附属病院(三次救急医療施設) [全事業・残事業] 約24分短縮 [整備前59分⇒整備後35分] : 東九州自動車道 (清武南IC～日南IC)

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
東九州自動車道	北郷～日南	9.0km	高規格(新直轄)	ＢＰ

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
19,300	2	九州地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	平成26年度		
単純合計	189億円	56億円	245億円
うち残事業分	49億円	56億円	105億円
基準年における 現在価値 (C)	206億円	21億円	227億円
うち残事業分	47億円	21億円	68億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成26年度			
供 用 年	平成30年度			
単年便益 (初年便益)	5.4億円	1.4億円	1.3億円	8.1億円
基準年における 現在価値 (B)	395億円	104億円	59億円	559億円
うち残事業分	395億円	104億円	59億円	559億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	2.5
経済的純現在価値（事業全体）	332億円
経済的内部収益率（事業全体）	8.9%
費用便益比（残事業）	8.2
経済的純現在価値（残事業）	491億円
経済的内部収益率（残事業）	34%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,300	±10%	2.2 ～ 2.7
事業費	189億円	±10%	2.4 ～ 2.5
事業期間	20年	±20%	2.4 ～ 2.5

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,300	±10%	7.4 ～ 9.0
事業費	49億円	±10%	7.7 ～ 8.8
事業期間	3年	±20%	8.2 ～ 8.2

交通状況の変化

様式－3①

事業名：東九州自動車道 北郷～日南

(推計時点 H42年) (事業全体・残事業)

			整備なし(A)	整備あり(B)	
①新設・改築道路 〔東九州道 (北郷～日南)〕 ：9.0km		交通量	[台/日]	0.00	19,300
		走行時間	[分]	0.00	7.6
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	28
②主な周 辺道路	国道220 号 ：15.5km	交通量	[台/日]	8,000	6,000
		走行時間	[分]	17	17
		走行時間費用	[億円/年]	26	19
	(主)日南 高岡線 ：9.1km	交通量	[台/日]	13,900	3,100
		走行時間	[分]	14	13
		走行時間費用	[億円/年]	38	7.5
	(一)郷之 原日南線 ：7.7km	交通量	[台/日]	6,200	1,800
		走行時間	[分]	13	13
		走行時間費用	[億円/年]	16	4.6
③その他道路合計 ：1,655.1km		走行時間費用	[億円/年]	3,175	3,173

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：1,696.4km	走行時間短縮便益	[億円/年]	3,254	3,232	22

事業名：東九州自動車道 北郷～日南



費用便益分析の条件

事業名:東九州自動車道 北郷～日南

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	☒	
	その他	☐	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年間	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	平成26年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☒ (H42)
		複数時点での推計	☐ ()
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	☒
		整備の有無のいずれかのみ推計	☐ 有 ☐ 無
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	☒ (H17センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	☐
		その他()	☐
	開発交通量の考慮	無	☒
		有	☐
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) ()台トリップ/日 考慮した理由を記載
	配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	☐
		転換率式を用いた配分	☐
		Q-V式と転換率式の併用による配分	☒
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	☐
		簡易手法	☐
		簡易手法の 採択理由	小規模事業である
山間部海岸部で併行道路が少ない			☐
その他()			
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付け して設定	☒	
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax～Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線などが混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。		
	最終配分の速度	☐	
	採用理由を記載		
	その他()	☐	

事業名:東九州自動車道 北郷～日南

(3)

項目			チェック欄	
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	☒
			対象路線のみ考慮	☐
			採用した休日係数	(128) %
			休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載 休日交通量の多い国道220号での平日交通量と休日交通量の交通量比を使用	
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	(1.48) 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
			過去15年間の通行止め実績	
			とり止め交通を考慮する	☐
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載 過去の実績値がないため			
	冬期交通の 影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日
			採用した冬期日数の考え方を記載 冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載	
交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	☒		
	その他 ()	☐		
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	☒		
	独自に設定した値を使用	☐		
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用	☒		
	独自に設定した値を使用	☐		
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮	☒		
	中央分離帯の有無を考慮しない	☐		
走行時間短縮・走 行経費減少・交通 事故減少以外の便 益	考慮しない	☒		
	考慮する	☐		
その他				

事業名:東九州自動車道 北郷～日南

(4)

項目			チェック欄
費用 の 算 定	事業費	詳細事業計画による値を採用	☒
		標準投資パターンを採用	☐
		その他()	☐
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費(過去3年間:H23～H25)に基づく	
		雪寒費	積雪地域または寒冷地域である
	その他		
4. その他			

費用の現在価値算定表

箇所名: 東九州自動車道 北郷～日南 (事業全体)

維持管理費の単価の算出(消費税相当額含む)

年次	年度	割合率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単価(億円)		延長(km)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-20年目	H 10	1.8730	109.9	0.16	0.24		
-19年目	H 11	1.8009	108.4	0.82	1.24		
-18年目	H 12	1.7317	107.2	0.10	0.14		
-17年目	H 13	1.6651	105.7	0.09	0.14		
-16年目	H 14	1.6010	103.8	0.14	0.20		
-15年目	H 15	1.5395	102.3	0.26	0.36		
-14年目	H 16	1.4802	101.0	2.02	2.71		
-13年目	H 17	1.4233	99.6	3.33	4.34		
-12年目	H 18	1.3686	98.7	6.75	8.55		
-11年目	H 19	1.3159	97.6	35.49	43.68		
-10年目	H 20	1.2653	96.8	15.96	19.05		
-9年目	H 21	1.2167	95.6	16.27	18.90		
-8年目	H 22	1.1699	93.7	7.86	8.96		
-7年目	H 23	1.1249	92.1	2.26	2.52		
-6年目	H 24	1.0816	91.3	6.00	6.49		
-5年目	H 25	1.0400	91.3	26.33	27.39		
-4年目	H 26	1.0000	91.3	16.07	16.07		
-3年目	H 27	0.9615	91.3	28.71	27.61		
-2年目	H 28	0.9246	91.3	19.44	17.98		
-1年目	H 29	0.8890	91.3	1.31	1.17		
供用開始年次	H 30	0.8548	91.3			1.11	0.95
1年目	H 31	0.8219	91.3			1.11	0.91
2年目	H 32	0.7903	91.3			1.11	0.88
3年目	H 33	0.7599	91.3			1.11	0.84
4年目	H 34	0.7307	91.3			1.11	0.81
5年目	H 35	0.7026	91.3			1.11	0.78
6年目	H 36	0.6756	91.3			1.11	0.75
7年目	H 37	0.6496	91.3			1.11	0.72
8年目	H 38	0.6246	91.3			1.11	0.69
9年目	H 39	0.6006	91.3			1.11	0.67
10年目	H 40	0.5775	91.3			1.11	0.64
11年目	H 41	0.5553	91.3			1.11	0.62
12年目	H 42	0.5339	91.3			1.11	0.59
13年目	H 43	0.5134	91.3			1.11	0.57
14年目	H 44	0.4936	91.3			1.11	0.55
15年目	H 45	0.4746	91.3			1.11	0.53
16年目	H 46	0.4564	91.3			1.11	0.51
17年目	H 47	0.4388	91.3			1.11	0.49
18年目	H 48	0.4220	91.3			1.11	0.47
19年目	H 49	0.4057	91.3			1.11	0.45
20年目	H 50	0.3901	91.3			1.11	0.43
21年目	H 51	0.3751	91.3			1.11	0.42
22年目	H 52	0.3607	91.3			1.11	0.40
23年目	H 53	0.3468	91.3			1.11	0.39
24年目	H 54	0.3335	91.3			1.11	0.37
25年目	H 55	0.3207	91.3			1.11	0.36
26年目	H 56	0.3083	91.3			1.11	0.34
27年目	H 57	0.2965	91.3			1.11	0.33
28年目	H 58	0.2851	91.3			1.11	0.32
29年目	H 59	0.2741	91.3			1.11	0.30
30年目	H 60	0.2636	91.3			1.11	0.29
31年目	H 61	0.2534	91.3			1.11	0.28
32年目	H 62	0.2437	91.3			1.11	0.27
33年目	H 63	0.2343	91.3			1.11	0.26
34年目	H 64	0.2253	91.3			1.11	0.25
35年目	H 65	0.2166	91.3			1.11	0.24
36年目	H 66	0.2083	91.3			1.11	0.23
37年目	H 67	0.2003	91.3			1.11	0.22
38年目	H 68	0.1926	91.3			1.11	0.21
39年目	H 69	0.1852	91.3			1.11	0.21
40年目	H 70	0.1780	91.3			1.11	0.20
41年目	H 71	0.1712	91.3			1.11	0.19
42年目	H 72	0.1646	91.3			1.11	0.18
43年目	H 73	0.1583	91.3			1.11	0.18
44年目	H 74	0.1522	91.3			1.11	0.17
45年目	H 75	0.1463	91.3			1.11	0.16
46年目	H 76	0.1407	91.3			1.11	0.16
47年目	H 77	0.1353	91.3			1.11	0.15
48年目	H 78	0.1301	91.3			1.11	0.14
49年目	H 79	0.1251	91.3	-13.79	-1.72	1.11	0.14
合 計				175.60	206.01	55.56	21.22
単純事業費計				189.39		55.56	

注1) 事業費の投資パターンは、詳細事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

					維持管理費の単価の算出(消費税相当額含む)			
箇所名: 東九州自動車道 北郷～日南(残事業)					単価(億円)	延長(km)	単価(億円)	
					0.13	9.00	1.20	
年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)	単純価値	現在価値	維持管理費(億円)	単純価値
-3年目	H 27	0.9615	91.3	28.71	27.61			
-2年目	H 28	0.9246	91.3	19.44	17.98			
-1年目	H 29	0.8890	91.3	1.31	1.17			
供用開始年次	H 30	0.8548	91.3				1.11	0.95
1年目	H 31	0.8219	91.3				1.11	0.91
2年目	H 32	0.7903	91.3				1.11	0.88
3年目	H 33	0.7599	91.3				1.11	0.84
4年目	H 34	0.7307	91.3				1.11	0.81
5年目	H 35	0.7026	91.3				1.11	0.78
6年目	H 36	0.6756	91.3				1.11	0.75
7年目	H 37	0.6496	91.3				1.11	0.72
8年目	H 38	0.6246	91.3				1.11	0.69
9年目	H 39	0.6006	91.3				1.11	0.67
10年目	H 40	0.5775	91.3				1.11	0.64
11年目	H 41	0.5553	91.3				1.11	0.62
12年目	H 42	0.5339	91.3				1.11	0.59
13年目	H 43	0.5134	91.3				1.11	0.57
14年目	H 44	0.4936	91.3				1.11	0.55
15年目	H 45	0.4746	91.3				1.11	0.53
16年目	H 46	0.4564	91.3				1.11	0.51
17年目	H 47	0.4388	91.3				1.11	0.49
18年目	H 48	0.4220	91.3				1.11	0.47
19年目	H 49	0.4057	91.3				1.11	0.45
20年目	H 50	0.3901	91.3				1.11	0.43
21年目	H 51	0.3751	91.3				1.11	0.42
22年目	H 52	0.3607	91.3				1.11	0.40
23年目	H 53	0.3468	91.3				1.11	0.39
24年目	H 54	0.3335	91.3				1.11	0.37
25年目	H 55	0.3207	91.3				1.11	0.36
26年目	H 56	0.3083	91.3				1.11	0.34
27年目	H 57	0.2965	91.3				1.11	0.33
28年目	H 58	0.2851	91.3				1.11	0.32
29年目	H 59	0.2741	91.3				1.11	0.30
30年目	H 60	0.2636	91.3				1.11	0.29
31年目	H 61	0.2534	91.3				1.11	0.28
32年目	H 62	0.2437	91.3				1.11	0.27
33年目	H 63	0.2343	91.3				1.11	0.26
34年目	H 64	0.2253	91.3				1.11	0.25
35年目	H 65	0.2166	91.3				1.11	0.24
36年目	H 66	0.2083	91.3				1.11	0.23
37年目	H 67	0.2003	91.3				1.11	0.22
38年目	H 68	0.1926	91.3				1.11	0.21
39年目	H 69	0.1852	91.3				1.11	0.21
40年目	H 70	0.1780	91.3				1.11	0.20
41年目	H 71	0.1712	91.3				1.11	0.19
42年目	H 72	0.1646	91.3				1.11	0.18
43年目	H 73	0.1583	91.3				1.11	0.18
44年目	H 74	0.1522	91.3				1.11	0.17
45年目	H 75	0.1463	91.3				1.11	0.16
46年目	H 76	0.1407	91.3				1.11	0.16
47年目	H 77	0.1353	91.3				1.11	0.15
48年目	H 78	0.1301	91.3				1.11	0.14
49年目	H 79	0.1251	91.3	-0.13	-0.02		1.11	0.14
合 計				49.34	46.74		55.56	21.22
単純事業費計				49.47		55.56		

注1) 事業費の投資パターンは、詳細事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

簡所名:東九州自動車道北郷～日南(事業全体・残事業)

年度 (表年度)	年度 H26	総走行台枠の年次別伸び率 (南九州ブロック)					割戻率 (A)	GDP テラレタ	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)			便益合計 (⑦~⑬)	合計 (億円)	
		乗用車種		小型貨物		普通貨物			乗用車種		小型貨物		普通貨物	乗用車種		小型貨物		普通貨物	現在価値 (A)×②			③
		乗用車種	小型貨物	普通貨物	普通貨物	普通貨物			乗用車種	小型貨物	普通貨物	普通貨物	乗用車種	小型貨物	普通貨物	① 計	② 計	③				
年次	年次	乗用車種	小型貨物	普通貨物	普通貨物	全車				現在価値 (A)×(A)	① 計	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 (A)×③	④	現在価値 (A)×④	⑤	現在価値 (A)×⑤	⑥	現在価値 (A)×⑥	
供用開始年次	H 30	0.99552	0.98887	0.98788	0.99348	0.98548	91.3	3.85	0.69	0.88	5.43	4.64	1.15	0.10	0.11	1.16	1.29	1.10	8.07	現在価値		
1年目	H 31	0.99554	0.98875	0.98783	0.99343	0.8219	91.3	18.55	4.41	0.8219	24.95	4.72	0.85	0.54	0.54	6.12	5.03	3.52	2.90	34.59	28.43	
2年目	H 32	0.99665	0.98975	0.99147	0.99479	0.7903	91.3	18.47	4.37	1.96	24.79	19.59	4.70	0.85	0.54	6.08	4.81	3.50	2.77	34.37	27.17	
3年目	H 33	0.99664	0.98964	0.99140	0.99476	0.7599	91.3	18.41	4.32	1.94	24.67	18.75	4.68	0.84	0.53	6.05	4.60	3.48	2.65	34.20	25.99	
4年目	H 34	0.99663	0.98953	0.99132	0.99473	0.7307	91.3	18.35	4.28	1.93	24.53	17.94	4.67	0.83	0.53	6.02	4.40	3.46	2.53	34.03	24.87	
5年目	H 35	0.99662	0.98942	0.99125	0.99470	0.7026	91.3	18.28	4.23	1.91	24.42	17.16	4.65	0.82	0.52	5.99	4.21	3.44	2.42	33.86	23.79	
6年目	H 36	0.99661	0.98931	0.99117	0.99468	0.6756	91.3	18.22	4.19	1.89	24.30	16.42	4.63	0.81	0.52	5.96	4.03	3.43	2.31	33.69	22.76	
7年目	H 37	0.99659	0.98919	0.99109	0.99465	0.6496	91.3	18.16	4.14	1.88	24.18	15.70	4.62	0.80	0.51	5.94	3.86	3.41	2.21	33.52	21.77	
8年目	H 38	0.99658	0.98908	0.99101	0.99462	0.6246	91.3	18.10	4.10	1.86	24.05	15.02	4.60	0.79	0.51	5.91	3.69	3.39	2.12	33.35	20.83	
9年目	H 39	0.99657	0.98895	0.99093	0.99459	0.6006	91.3	18.04	4.05	1.84	23.93	14.37	4.59	0.78	0.51	5.88	3.53	3.37	2.02	33.18	19.93	
10年目	H 40	0.99656	0.98883	0.99085	0.99456	0.5775	91.3	17.97	4.01	1.83	23.81	13.75	4.57	0.78	0.50	5.85	3.38	3.35	1.94	33.01	19.06	
11年目	H 41	0.99655	0.98871	0.99076	0.99453	0.5553	91.3	17.91	3.96	1.81	23.68	13.15	4.56	0.77	0.50	5.82	3.23	3.33	1.85	32.84	18.23	
12年目	H 42	0.99652	0.98853	0.99062	0.99186	0.5339	91.3	17.29	3.70	1.05	22.04	11.77	4.92	0.96	0.30	6.18	3.30	3.36	1.80	31.59	16.87	
13年目	H 43	0.99623	0.98949	0.99082	0.99179	0.5134	91.3	17.12	3.68	1.05	21.85	11.22	4.88	0.95	0.30	6.13	3.15	3.33	1.71	31.32	16.08	
14年目	H 44	0.99603	0.98945	0.99082	0.99172	0.4936	91.3	16.95	3.66	1.05	21.66	10.69	4.83	0.94	0.30	6.08	3.00	3.31	1.63	31.05	15.33	
15年目	H 45	0.99603	0.98940	0.99081	0.99166	0.4746	91.3	16.79	3.63	1.05	21.47	10.19	4.78	0.94	0.30	6.02	2.86	3.28	1.56	30.78	14.61	
16年目	H 46	0.98993	0.98936	0.99081	0.99158	0.4564	91.3	16.62	3.61	1.05	21.28	9.71	4.73	0.93	0.30	5.97	2.72	3.25	1.48	30.50	13.92	
17年目	H 47	0.98983	0.98932	0.99081	0.99144	0.4388	91.3	16.45	3.58	1.06	21.09	9.26	4.69	0.93	0.30	5.92	2.60	3.23	1.42	30.23	13.27	
18年目	H 48	0.98973	0.98927	0.99081	0.99144	0.4220	91.3	16.29	3.56	1.06	20.90	8.82	4.64	0.92	0.30	5.86	2.47	3.20	1.35	29.96	12.64	
19年目	H 49	0.98962	0.98923	0.99081	0.99137	0.4057	91.3	16.12	3.54	1.06	20.71	8.40	4.59	0.91	0.31	5.81	2.36	3.17	1.29	29.69	12.05	
20年目	H 50	0.98951	0.98918	0.99081	0.99129	0.3901	91.3	15.95	3.51	1.06	20.52	8.01	4.54	0.91	0.31	5.76	2.25	3.14	1.23	29.42	11.48	
21年目	H 51	0.98940	0.98913	0.99081	0.99122	0.3751	91.3	15.78	3.49	1.06	20.33	7.63	4.50	0.90	0.31	5.70	2.14	3.12	1.17	29.15	10.93	
22年目	H 52	0.98929	0.98909	0.99081	0.99114	0.3607	91.3	15.62	3.46	1.06	20.14	7.26	4.45	0.89	0.31	5.65	2.04	3.09	1.11	28.88	10.42	
23年目	H 53	0.98917	0.98904	0.99081	0.99106	0.3468	91.3	15.45	3.44	1.06	19.95	6.92	4.40	0.89	0.31	5.60	1.94	3.06	1.08	28.60	9.92	
24年目	H 54	0.98905	0.98929	0.99081	0.99098	0.3335	91.3	15.28	3.42	1.06	19.76	6.59	4.35	0.88	0.31	5.54	1.85	3.03	1.01	28.33	9.45	
25年目	H 55	0.98893	0.98924	0.99081	0.99090	0.3207	91.3	15.11	3.39	1.06	19.57	6.27	4.31	0.88	0.31	5.49	1.76	3.01	0.96	28.06	9.00	
26年目	H 56	0.98881	0.98929	0.99081	0.99081	0.3083	91.3	14.95	3.37	1.06	19.38	5.97	4.26	0.87	0.31	5.43	1.68	2.98	0.92	27.79	8.57	
27年目	H 57	0.98868	0.98928	0.99073	0.99073	0.2965	91.3	14.78	3.34	1.06	19.19	5.69	4.21	0.86	0.31	5.38	1.60	2.95	0.88	27.52	8.16	
28年目	H 58	0.98855	0.98929	0.99064	0.99064	0.2851	91.3	14.61	3.32	1.06	19.00	5.42	4.16	0.86	0.31	5.33	1.52	2.92	0.83	27.25	7.77	
29年目	H 59	0.98842	0.98923	0.99081	0.99055	0.2741	91.3	14.44	3.30	1.06	18.81	5.15	4.11	0.85	0.31	5.27	1.45	2.90	0.79	26.98	7.39	
30年目	H 60	0.98828	0.98928	0.99046	0.99046	0.2636	91.3	14.28	3.27	1.07	18.62	4.91	4.07	0.85	0.31	5.22	1.38	2.87	0.76	26.71	7.04	
31年目	H 61	0.98814	0.98926	0.99037	0.99037	0.2534	91.3	14.11	3.25	1.07	18.43	4.67	4.02	0.84	0.31	5.17	1.31	2.84	0.72	26.43	6.70	
32年目	H 62	0.98800	0.98925	0.99028	0.99028	0.2437	91.3	13.94	3.22	1.07	18.23	4.44	3.97	0.83	0.31	5.11	1.25	2.81	0.69	26.16	6.37	
33年目	H 63	0.98785	0.98925	0.99018	0.99018	0.2343	91.3	13.78	3.20	1.07	18.04	4.23	3.92	0.83	0.31	5.06	1.19	2.79	0.65	25.89	6.07	
34年目	H 64	0.98770	0.98926	0.99026	0.99026	0.2253	91.3	13.61	3.18	1.07	17.85	4.02	3.88	0.82	0.31	5.01	1.13	2.76	0.62	25.62	5.77	
35年目	H 65	0.98755	0.98924	0.99018	0.99018	0.2166	91.3	13.44	3.15	1.07	17.66	3.83	3.83	0.81	0.31	4.95	1.07	2.73	0.59	25.35	5.49	
36年目	H 66	0.98739	0.98925	0.99018	0.98988	0.2083	91.3	13.27	3.13	1.07	17.47	3.64	3.78	0.81	0.31	4.90	1.02	2.71	0.56	25.08	5.22	
37年目	H 67	0.98723	0.98929	0.99018	0.98978	0.2003	91.3	13.11	3.10	1.07	17.28	3.46	3.73	0.80	0.31	4.84	0.97	2.68	0.54	24.81	4.97	
38年目	H 68	0.98707	0.98923	0.99018	0.98967	0.1926	91.3	12.94	3.08	1.07	17.09	3.29	3.69	0.80	0.31	4.79	0.92	2.65	0.51	24.53	4.72	
39年目	H 69	0.98690	0.98917	0.99018	0.98957	0.1852	91.3	12.77	3.06	1.07	16.90	3.13	3.64	0.79	0.31	4.74	0.88	2.62	0.49	24.26	4.49	
40年目	H 70	0.98672	0.98910	0.99018	0.98946	0.1780	91.3	12.60	3.03	1.07	16.71	2.98	3.59	0.78	0.31	4.68	0.83	2.60	0.48	23.99	4.27	
41年目	H 71	0.98655	0.98904	0.99018	0.98934	0.1712	91.3	12.44	3.01	1.07	16.52	2.83	3.54	0.78	0.31	4.63	0.79	2.57	0.44	23.72	4.06	
42年目	H 72	0.98636	0.98918	0.99018	0.98923	0.1646	91.3	12.27	2.99	1.08	16.33	2.69	3.49	0.77	0.31	4.58	0.75	2.54	0.42	23.45	3.86	
43年目	H 73	0.98617	0.98919	0.99018	0.98911	0.1583	91.3	12.10	2.96	1.08	16.14	2.55	3.45	0.76	0.31	4.52	0.72	2.51	0.40	23.18	3.67	
44年目	H 74	0.98598	0.98918	0.99018	0.98939	0.1522	91.3	11.93	2.94	1.08	15.95	2.43	3.40	0.76	0.31	4.47	0.68	2.49	0.38	22.91	3.49	
45年目	H 75	0.98578	0.98917	0.99018	0.98887	0.1463	91.3	11.77	2.91	1.08	15.76	2.31	3.35	0.75	0.31	4.42	0.65	2.46	0.36	22.63	3.31	
46年目	H 76	0.98558	0.98917	0.99018	0.98874	0.1407	91.3	11.60	2.89	1.08	15.57	2.19	3.30	0.75	0.31	4.36	0.61	2.43	0.34	22.36	3.15	
47年目	H 77	0.98536	0.98916	0.99018	0.98862	0.1353	91.3	11.43	2.87	1.08	15.38	2.08	3.26	0.74	0.31	4.31	0.58	2.40	0.33	22.09	2.99	
48年目	H 78	0.98515	0.98915	0.99018	0.98848	0.1301	91.3	11.27	2.84	1.08	15.19	1.98	3.21	0.73	0.31	4.26	0.55	2.38	0.31	21.82	2.84	
49年目	H 79	0.98492	0.98915	0.99018	0.98835	0.1251	91.3	11.10	2.82	1.08	15.00	1.88	3.16	0.73	0.31	4.20	0.53	2.35	0.29	21.55	2.70	
合計								743.68	170.64	62.21	976.53	395.49	205.78	41.02	17.53	264.32	104.39	147.50	58.87	1,388.35	558.74	

全体事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	北郷～日南	2	9.0km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					14,930	
	改良費				9,618	
		土工	m ³	3,639,344	3,124	切土(1,011,346m ³)、盛土(2,627,998m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³	30,596	738	深層混合処理等
		法面工	m ²	352,883	1,271	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	260	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
		管渠工	m	1,093	120	
		函渠工	m	888	1,822	
		排水工	m	31,250	378	
		中央分離帯工	m	8,454	473	
		雑工	式	1	1,432	
	橋梁費			608	3,135	
		100m以上	m	265	1,223	PC橋2橋
		100m未満	m	343	1,912	Me橋2橋、PC橋2橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費				228	
		IC	箇所	1	228	
		JCT	箇所			
	舗装費				838	
		車道舗装	m ²	87,444	838	
		歩道舗装	m ²			
	付帯施設費				1,110	
		交通管理施設工	式	1	1,110	標識工、防護柵工、道路照明等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1,764	
	用地費			m ²	355,884	1,379
		宅地	m ²	25,622	804	
		田畑	m ²	188,002	504	
		山林・原野	m ²	142,260	71	
		その他	m ²			
	補償費			式	1	385
③間接経費			式	1	3,307	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					20,001	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

残事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	北郷～日南	2	9.0km

■ 事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
① 工事費					5,101	
	改良費				2,892	
		土工	m ³	1,321,534	1,233	切土(431,674m ³)、盛土(889,860m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³	6,247	149	深層混合処理等
		法面工	m ²	73,137	350	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	88	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
		管渠工	m	75	10	
		函渠工	m	41	107	
		排水工	m	13,811	127	
		中央分離帯工	m	8,454	473	
		雑工	式	1	355	
	橋梁費			88	211	
		100m以上	m			
		100m未満	m	88	211	PC橋1橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費				50	
		IC	箇所	1	50	
		JCT	箇所			
	舗装費				838	
		車道舗装	m ²	87,444	838	
		歩道舗装	m ²			
	付帯施設費				1,110	
		交通管理施設工	式	1	1,110	標識工、防護柵工、道路照明等
		遮音壁	m			
② 用地及補償費					15	
	用地費			m ²	10,497	13
		宅地	m ²			
		田畑	m ²	3,170	9	
		山林・原野	m ²	7,327	4	
		その他	m ²			
	補償費	式	1		2	
③ 間接経費			式	1	226	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					5,342	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

全事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	北郷～日南	2	9.0km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	9.0	1,300	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	4,700	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			6,000	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

残事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	北郷～日南	2	9.0km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	9.0	1,300	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	4,700	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			6,000	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

卷 末 資 料

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

	指 標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性 ■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比 (B/C) =1.2 (経済的純現在価値 (B-C) =284億円)、経済的内部収益率 (EIRR) =4.8% 残事業：費用便益比 (B/C) =3.8 (経済的純現在価値 (B-C) =1,360億円)、経済的内部収益率 (EIRR) =17%

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更)	指標チェックの根拠
1. 活力 円滑なモビリティの確保	■ 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率 □ 現道等における渋滞時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される □ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上踏切道の除却もしくは交通改善が期待される □ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する □ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が図込まれる ■ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる ■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる ■ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	区間B (当該区間／並行区間) について：国道220号 (高崎市本部～日南市大字風田)、(主)日南高岡線 (高崎市田野町～日南市大字東井分)、 (一)風田星倉線 (日南市大字東井分～日南市大字風田) 並行区間等の渋滞損失時間：63.1万人・時間/年 並行区間等の渋滞損失削減率：9割削減 日南市⇒宮崎空港 (第二種空港) [全事業・残事業] 約21分短縮 [整備前56分⇒整備後35分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC) 日南市⇒空崎港 (重要港湾) [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前65分⇒整備後40分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC) 34-1b-産出額が全国1位である日南市から九州外への輸送を支援 (JAはまゆから出荷される34-1b-の約9割は九州外へ空輸) JAはまゆ⇒宮崎空港 [全事業・残事業] 約20分短縮 [整備前53分⇒整備後33分]：東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)
物流効率化の支援	□ 現道等における、総重量25tの車両もしくは150規格荷高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	

1. 活力	都市の再生	☐ 都市再生プロジェクトを支援する事業である		
		☐ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する		
		☐ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり		
		☐ 中心市街地内で行う事業である		
		☐ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内の事業である		
		☐ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する		
		☐ 対象区間が現在連絡道路がない住宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる		
		☐ 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)としての位置づけ有り		
		☐ 地域高規格道路の位置づけあり		
		☒ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)	
	個性ある地域の形成	☒ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)	
		☒ 現道等における交通不能区間を解消する	国道220号の事前通行規制区間 (小内海～富土、宮浦～風田) の代替路線として機能する	
		☐ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する		
		☒ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	日南市⇒宮崎市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前67分⇒整備後42分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)	
		☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する		
		☐ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する		
2. 暮らし	歩行者・自転車などのための生活空間の形成	☒ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	佐世保市年間観光客入り込み数 : 約20万人 (H25年) 宮崎市⇒佐世保市 [全事業・残事業] 約25分短縮 [整備前68分⇒整備後43分] : 東九州自動車道 (清武JCT～日南IC)	
		☐ 特別立法に基づく事業である		
		☐ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である		
		☐ 歴史的景観を活かした道路整備や中心商店街のシンボリック的な道路整備等、特色あるまちづくりに資する事業である		
		☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車等の通行の快適・安全性の向上が期待できる		
		☐ バリアフリー新法に基づく特定道路が新たにバリアフリー化される		
	高齢化による新しい町並みの形成	☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り		
		☐ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する		
	安全で安心できる暮らしの確保	☒ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	日南市⇒宮崎大学医学部附属病院 (三次救急医療施設) [全事業・残事業] 約24分短縮 [整備前59分⇒整備後35分] : 東九州自動車道 (清武南IC～日南IC)	

3. 安全	安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億km・年以上である区間がある場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる ☐ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は児童、園児が40人/日以上）かつ歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される ☐ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路切断で孤立化する集落を解消する	☐ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり ☒ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	代替する緊急輸送道路：国道220号（第一次ネットワーク）、代替する区間：日南市～宮崎市間
	災害への備え	☐ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A 路線としての位置づけがある場合） ☐ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは整備の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される ☐ 現道等の車道通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する ☐ 避難路へ1km以内で到達できる地区が新たに増加する ☐ 幅員6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する ☐ 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす		
	4. 環境	☒ 対象道路の整備により削減される自動車からのCO ₂ 排出量 ☒ 現道等における自動車からのNO ₂ 排出削減率 ☒ 現道等における自動車からのSPM排出削減率		CO ₂ 排出削減量：30,969 t-CO ₂ /年（全事業・残事業） 評価対象区間（現道）：国道220号（宮崎市本郷～日南市大字東弁分）、（主）日南高岡線（宮崎市田野町～日南市大字東弁分）、（一）風田重倉線（日南市大字東弁分～日南市大字風田） 排出削減量：38.5 t-NO _x /年、排出削減率：約5割削減（全事業・残事業） 評価対象区間（現道）：国道220号（宮崎市本郷～日南市大字風田）、（主）日南高岡線（宮崎市田野町～日南市大字東弁分）、（一）風田重倉線（日南市大字東弁分～日南市大字風田） 排出削減量：2.1 t-SPM/年、排出削減率：約6割削減（全事業・残事業）
	5. その他	☐ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある ☐ その他、環境や景観上の効果が期待される ☐ 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている ☐ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり ☐ 他機関との連携プログラムに位置づけられている ☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる		

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
東九州自動車道	清武JCT～北郷～日南	28.0km	高規格(新直轄)	ＢＰ

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
19,300～19,700	2	九州地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	平成26年度		
単純合計	1,418億円	170億円	1,588億円
うち残事業分	471億円	163億円	634億円
基準年における 現在価値 (C)	1,505億円	64億円	1,569億円
うち残事業分	432億円	61億円	494億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成26年度			
供 用 年	平成30年度			
単年便益 (初年便益)	5.4億円	1.4億円	1.3億円	8.1億円
基準年における 現在価値 (B)	1,266億円	399億円	188億円	1,853億円
うち残事業分	1,266億円	399億円	188億円	1,853億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	1.2
経済的純現在価値（事業全体）	284億円
経済的内部収益率（事業全体）	4.8%
費用便益比（残事業）	3.8
経済的純現在価値（残事業）	1,360億円
経済的内部収益率（残事業）	17%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,300～19,700	±10%	1.1 ～ 1.3
事業費	1,418億円	±10%	1.1 ～ 1.2
事業期間	22年	±20%	1.1 ～ 1.2

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,300～19,700	±10%	3.4 ～ 4.1
事業費	471億円	±10%	3.5 ～ 4.1
事業期間	4年	±20%	3.6 ～ 3.8

交通状況の変化

様式－3①

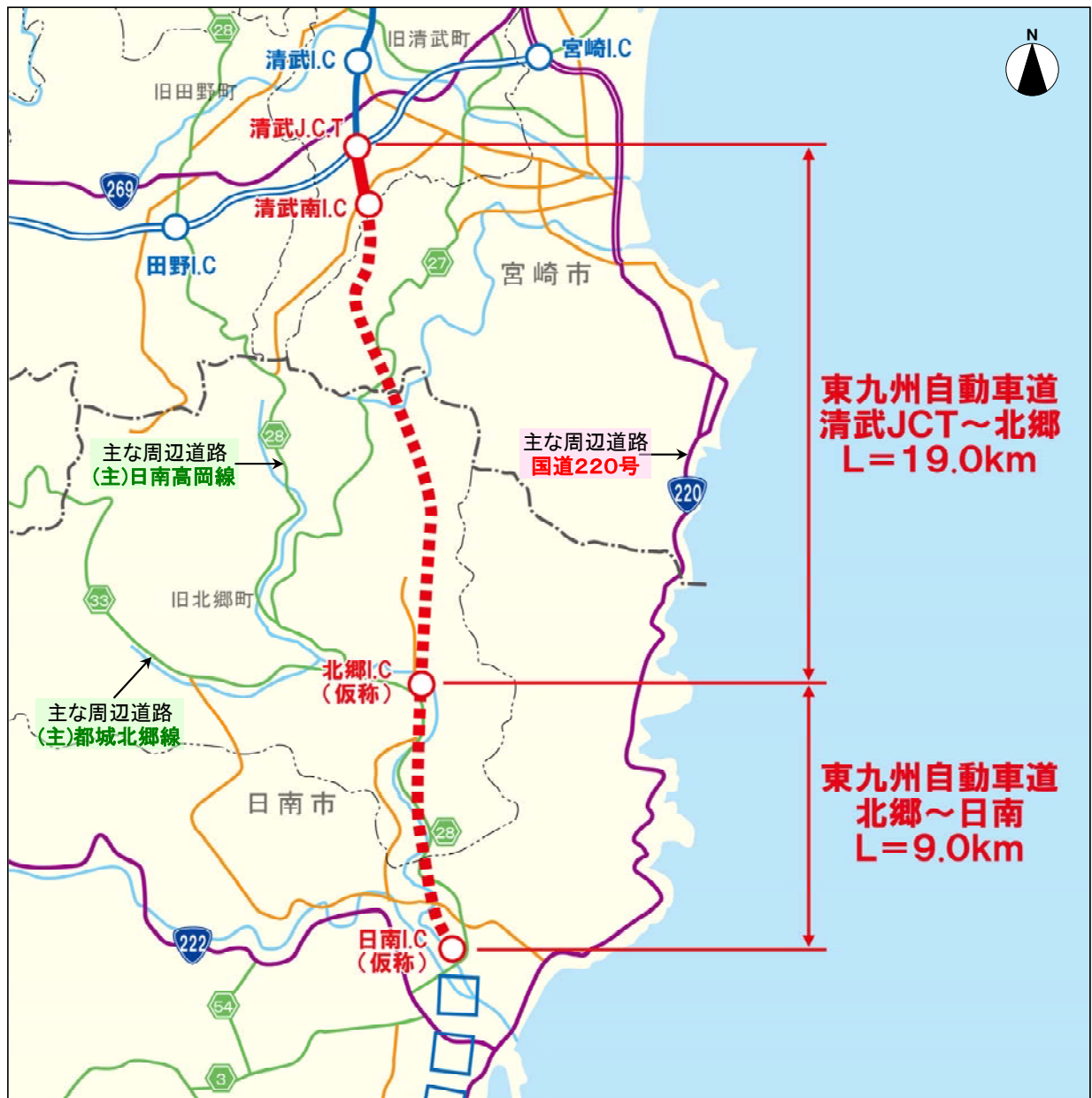
事業名：東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南

(推計時点 H42年) (事業全体・残事業)

				整備なし (A)	整備あり (B)
①新設・改築道路 〔東九州道 (清武JCT～北郷)〕 ：19.0km		交通量	[台/日]	0.00	19,700
		走行時間	[分]	0.00	16
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	57
①新設・改築道路 〔東九州道 (北郷～日南)〕 ：9.0km		交通量	[台/日]	0.00	19,300
		走行時間	[分]	0.00	7.6
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	28
②主な周 辺道路	国道220 号 ：38.1km	交通量	[台/日]	14,600	5,100
		走行時間	[分]	52	45
		走行時間費用	[億円/年]	139	41
	(主)日南 高岡線 ：33.1km	交通量	[台/日]	5,000	1,300
		走行時間	[分]	45	45
		走行時間費用	[億円/年]	44	11
	(主)都城 北郷線 ：30.5km	交通量	[台/日]	5,200	2,600
		走行時間	[分]	47	47
		走行時間費用	[億円/年]	46	23
③その他道路合計 ：2,154.6km		走行時間費用	[億円/年]	3,861	3,856

			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 2,284.3km	走行時間短縮便益	[億円/年]	4,090	4,016	73

事業名：東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南



費用便益分析の条件

事業名:東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南

(2)

項目			チェック欄		
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)		☒		
	その他		☐		
分析の基本的事項	分析対象期間		50年間		
	社会的割引率		4%		
	基準年次		平成26年		
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☒ (H42)		
		複数時点での推計	☐ ()		
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		☒	
		整備の有無のいずれかのみ推計		☐ 有 ☐ 無	
		いずれかのみ の推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載		
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)		☒ (H17センサス)	
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)		☐	
		その他()		☐	
	開発交通量の考慮	無		☒	
		有		☐	
		有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数)	()台トリップ/日	
			考慮した理由を記載		
	配分交通量の推計手法	Q－V式を用いた配分		☐	
		転換率式を用いた配分		☐	
		Q－V式と転換率式の併用による配分		☒	
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)		☐	
		簡易手法		☐	
		簡易手法の 採択理由	小規模事業である		☐
			山間部海岸部で併行道路が少ない		☐
その他()					
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)					
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定		☒		
	採用理由を記載 交通量が、交通容量(Qmax～Qmin)以上の路線、交通容量程度の路線などが混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。				
	最終配分の速度		☐		
	採用理由を記載				
	その他()		☐		

事業名: 東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南

(3)

項目			チェック欄	
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	☒
			対象路線のみ考慮	☐
			採用した休日係数	(128) %
			休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載 休日交通量の多い国道220号での平日交通量と休日交通量の交通量比を使用	
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	☐	
		考慮する	☒	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数	(1.48) 日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
			過去15年間の通行止め実績	
			とり止め交通を考慮する	☐
	とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載 過去の実績値がないため			
	冬期交通の 影響	考慮しない	☒	
		考慮する	☐	
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数	() 日
			採用した冬期日数の考え方を記載	
	交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定		☒
その他 ()		☐		
車種別時間 価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		☒	
	独自に設定した値を使用		☐	
車種別走行 経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		☒	
	独自に設定した値を使用		☐	
交通事故減少 便益算定	中央分離帯の有無を考慮		☒	
	中央分離帯の有無を考慮しない		☐	
走行時間短縮・走 行経費減少・交通 事故減少以外の便 益	考慮しない		☒	
	考慮する		☐	
その他				

(4)

道路-6·7-10

費用の現在価値算定表

維持管理費の単価算出(消費税相当額含む)

箇所名:東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南(事業全体)

年次	年度	割引率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単価(億円)	現在価値	単価(億円)	現在価値
				0.13		28.00	3.73
-21年目	H 9	1.9479	110.4	0.10	0.16		
-20年目	H 10	1.8730	109.9	0.89	1.39		
-19年目	H 11	1.8009	108.4	1.60	2.43		
-18年目	H 12	1.7317	107.2	1.77	2.61		
-17年目	H 13	1.6651	105.7	0.78	1.12		
-16年目	H 14	1.6010	103.8	1.65	2.32		
-15年目	H 15	1.5395	102.3	6.51	8.94		
-14年目	H 16	1.4802	101.0	6.66	8.91		
-13年目	H 17	1.4233	99.6	19.20	25.05		
-12年目	H 18	1.3686	98.7	55.69	70.51		
-11年目	H 19	1.3159	97.6	109.31	134.56		
-10年目	H 20	1.2653	96.8	110.47	131.84		
-9年目	H 21	1.2167	95.6	125.69	146.04		
-8年目	H 22	1.1699	93.7	85.22	97.15		
-7年目	H 23	1.1249	92.1	60.26	67.20		
-6年目	H 24	1.0816	91.3	94.93	102.68		
-5年目	H 25	1.0400	91.3	148.25	154.18		
-4年目	H 26	1.0000	91.3	118.33	118.33		
-3年目	H 27	0.9615	91.3	151.89	146.04		
-2年目	H 28	0.9246	91.3	144.69	133.78		
-1年目	H 29	0.8890	91.3	109.22	97.10		
供用開始年次	H 30	0.8548	91.3	64.83	55.42	1.11	0.95
1年目	H 31	0.8219	91.3			3.45	2.84
2年目	H 32	0.7903	91.3			3.45	2.73
3年目	H 33	0.7599	91.3			3.45	2.62
4年目	H 34	0.7307	91.3			3.45	2.52
5年目	H 35	0.7026	91.3			3.45	2.43
6年目	H 36	0.6756	91.3			3.45	2.33
7年目	H 37	0.6496	91.3			3.45	2.24
8年目	H 38	0.6246	91.3			3.45	2.16
9年目	H 39	0.6006	91.3			3.45	2.07
10年目	H 40	0.5775	91.3			3.45	1.99
11年目	H 41	0.5553	91.3			3.45	1.92
12年目	H 42	0.5339	91.3			3.45	1.84
13年目	H 43	0.5134	91.3			3.45	1.77
14年目	H 44	0.4936	91.3			3.45	1.70
15年目	H 45	0.4746	91.3			3.45	1.64
16年目	H 46	0.4564	91.3			3.45	1.58
17年目	H 47	0.4388	91.3			3.45	1.52
18年目	H 48	0.4220	91.3			3.45	1.46
19年目	H 49	0.4057	91.3			3.45	1.40
20年目	H 50	0.3901	91.3			3.45	1.35
21年目	H 51	0.3751	91.3			3.45	1.30
22年目	H 52	0.3607	91.3			3.45	1.25
23年目	H 53	0.3468	91.3			3.45	1.20
24年目	H 54	0.3335	91.3			3.45	1.15
25年目	H 55	0.3207	91.3			3.45	1.11
26年目	H 56	0.3083	91.3			3.45	1.06
27年目	H 57	0.2965	91.3			3.45	1.02
28年目	H 58	0.2851	91.3			3.45	0.98
29年目	H 59	0.2741	91.3			3.45	0.95
30年目	H 60	0.2636	91.3			3.45	0.91
31年目	H 61	0.2534	91.3			3.45	0.88
32年目	H 62	0.2437	91.3			3.45	0.84
33年目	H 63	0.2343	91.3			3.45	0.81
34年目	H 64	0.2253	91.3			3.45	0.78
35年目	H 65	0.2166	91.3			3.45	0.75
36年目	H 66	0.2083	91.3			3.45	0.72
37年目	H 67	0.2003	91.3			3.45	0.69
38年目	H 68	0.1926	91.3			3.45	0.67
39年目	H 69	0.1852	91.3			3.45	0.64
40年目	H 70	0.1780	91.3			3.45	0.61
41年目	H 71	0.1712	91.3			3.45	0.59
42年目	H 72	0.1646	91.3			3.45	0.57
43年目	H 73	0.1583	91.3			3.45	0.55
44年目	H 74	0.1522	91.3			3.45	0.53
45年目	H 75	0.1463	91.3			3.45	0.51
46年目	H 76	0.1407	91.3			3.45	0.49
47年目	H 77	0.1353	91.3			3.45	0.47
48年目	H 78	0.1301	91.3			3.45	0.45
49年目	H 79	0.1251	91.3	-19.73	-2.47	3.45	0.43
合計				1,398.20	1,505.26	170.34	63.95
単純事業費計				1,417.93		170.34	

注1)事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 東九州自動車道 清武JCT～北郷～日南(残事業)

年次	年度	割戻率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純単価	現在価値	単純単価	現在価値
				単価(億円)	延長(km)	単純単価(億円)	
				0.13	26.80	3.57	
-3年目	H 27	0.9615	91.3	151.89	146.04		
-2年目	H 28	0.9246	91.3	144.69	133.78		
-1年目	H 29	0.8890	91.3	109.22	97.10		
供用開始年次	H 30	0.8548	91.3	64.83	55.42	1.11	0.95
1年目	H 31	0.8219	91.3			3.31	2.72
2年目	H 32	0.7903	91.3			3.31	2.61
3年目	H 33	0.7599	91.3			3.31	2.51
4年目	H 34	0.7307	91.3			3.31	2.42
5年目	H 35	0.7026	91.3			3.31	2.32
6年目	H 36	0.6756	91.3			3.31	2.23
7年目	H 37	0.6496	91.3			3.31	2.15
8年目	H 38	0.6246	91.3			3.31	2.06
9年目	H 39	0.6006	91.3			3.31	1.99
10年目	H 40	0.5775	91.3			3.31	1.91
11年目	H 41	0.5553	91.3			3.31	1.84
12年目	H 42	0.5339	91.3			3.31	1.76
13年目	H 43	0.5134	91.3			3.31	1.70
14年目	H 44	0.4936	91.3			3.31	1.63
15年目	H 45	0.4746	91.3			3.31	1.57
16年目	H 46	0.4564	91.3			3.31	1.51
17年目	H 47	0.4388	91.3			3.31	1.45
18年目	H 48	0.4220	91.3			3.31	1.39
19年目	H 49	0.4057	91.3			3.31	1.34
20年目	H 50	0.3901	91.3			3.31	1.29
21年目	H 51	0.3751	91.3			3.31	1.24
22年目	H 52	0.3607	91.3			3.31	1.19
23年目	H 53	0.3468	91.3			3.31	1.15
24年目	H 54	0.3335	91.3			3.31	1.10
25年目	H 55	0.3207	91.3			3.31	1.06
26年目	H 56	0.3083	91.3			3.31	1.02
27年目	H 57	0.2965	91.3			3.31	0.98
28年目	H 58	0.2851	91.3			3.31	0.94
29年目	H 59	0.2741	91.3			3.31	0.91
30年目	H 60	0.2636	91.3			3.31	0.87
31年目	H 61	0.2534	91.3			3.31	0.84
32年目	H 62	0.2437	91.3			3.31	0.81
33年目	H 63	0.2343	91.3			3.31	0.77
34年目	H 64	0.2253	91.3			3.31	0.74
35年目	H 65	0.2166	91.3			3.31	0.72
36年目	H 66	0.2083	91.3			3.31	0.69
37年目	H 67	0.2003	91.3			3.31	0.66
38年目	H 68	0.1926	91.3			3.31	0.64
39年目	H 69	0.1852	91.3			3.31	0.61
40年目	H 70	0.1780	91.3			3.31	0.59
41年目	H 71	0.1712	91.3			3.31	0.57
42年目	H 72	0.1646	91.3			3.31	0.54
43年目	H 73	0.1583	91.3			3.31	0.52
44年目	H 74	0.1522	91.3			3.31	0.50
45年目	H 75	0.1463	91.3			3.31	0.48
46年目	H 76	0.1407	91.3			3.31	0.47
47年目	H 77	0.1353	91.3			3.31	0.45
48年目	H 78	0.1301	91.3			3.31	0.43
49年目	H 79	0.1251	91.3	-0.17	-0.02	3.31	0.41
合 計				470.46	432.32	163.08	61.25
単純事業費計				470.63		163.08	

注1) 事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

全体事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷～日南	2	28.0km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					127,149	
	改良費				26,865	
		土工	m ³	6,960,253	7,166	切土(2,835,990m ³)、盛土(4,124,263m ³)
		軟弱地盤改良工	m ³	30,596	738	深層混合処理等
		法面工	m ²	475,650	1,645	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	756	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等
		管渠工	m	1,781	308	
		函渠工	m	1,304	2,728	
		排水工	m	50,717	997	
		中央分離帯工	m	25,202	1,211	
		雑工	式	1	11,316	
	橋梁費				14,788	
		100m以上	m	2,458	11,639	Me橋4橋、PC橋7橋
		100m未満	m	627	3,149	Me橋6橋、PC橋3橋
	トンネル費				78,311	
		NATM	m	10,804	78,311	12本
		シールド	m			
	IC・JCT費				685	
		IC	箇所	3	685	ダイヤモンド型(2箇所)
		JCT	箇所			
	舗装費				4,971	
		車道舗装	m ²	157,592	4,971	
		歩道舗装	m ²			
	付帯施設費				1,528	
		交通管理施設工	式	1	1,528	標識工、防護柵工、道路照明等
		遮音壁	m			
②用地及補償費					2,869	
	用地費	m ²	973,892	1,973		
		宅地	m ²	31,989	852	
		田畑	m ²	272,652	691	
		山林・原野	m ²	669,251	431	
		その他	m ²			
	補償費	式	1	896		
③間接経費		式	1	19,763	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等	
全体事業費				149,780		

【単価等について】

- 工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用
- 用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

残事業費内訳

参考様式1

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷～日南	2	26.8km

■ 事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考	
①工事費					48,696		
	改良費					10,391	
		土工	m ³	3,394,028	3,236	切土(1,638,234m ³)、盛土(1,755,794m ³)	
		軟弱地盤改良工	m ³	6,247	149	深層混合処理等	
		法面工	m ²	116,632	414	切土法面、盛土法面	
		擁壁工	式	1	283	補強土壁、重力式擁壁、ブロック積擁壁等	
		管渠工	m	228	51		
		函渠工	m	60	196		
		排水工	m	22,179	399		
		中央分離帯工	m	25,202	1,211		
		雑工	式	1	4,452		
	橋梁費					6,439	
		100m以上	m	1,771	6,228	Me橋3橋、PC橋4橋	
		100m未満	m	88	211	PC橋1橋	
	トンネル費					24,935	
		NATM	m	4,517	24,935	4本	
		シールド	m				
	IC・JCT費					432	
		IC	箇所	3	432	ダイヤモンド型(2箇所)	
		JCT	箇所				
	舗装費					4,971	
		車道舗装	m ²	157,592	4,971		
		歩道舗装	m ²				
	付帯施設費					1,528	
		交通管理施設工	式	1	1,528	標識工、防護柵工、道路照明等	
遮音壁		m					
②用地及補償費					20		
	用地費	m ²	13,024	17			
		宅地	m ²				
		田畑	m ²	3,170	9		
		山林・原野	m ²	9,854	8		
		その他	m ²				
	補償費	式	1	3			
③間接経費		式	1	1,411	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等		
全体事業費				50,127			

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

全事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷～日南	2	28.0km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	28.0	3,995	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	14,402	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			18,397	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

残事業における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
東九州自動車道	清武JCT～北郷～日南	2	26.8km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円)	備考
維持費	km	26.8	3,799	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	13,814	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			17,613	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。